

(様式第10)

東医大発第263号  
令和6年10月5日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 東京医科大学  
理事長 矢崎 義雄

東京医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1
氏名	学校法人東京医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

東京医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1
電話(03)3342-6111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			<input type="radio"/>	11リウマチ科
診療実績							

- 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	臨床検査科	2	形成外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	糖尿病代謝内分泌内科
6	老年内科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
19	0	0	0	885	904

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	751	31.3	782.3	看護補助者	57	診療エックス線技師	0	
歯科医師	24	1.9	25.9	理学療法士	23	臨床検査 臨床検査技師	134	
薬剤師	74	0.7	74.7	作業療法士	6		衛生検査技師	0
保健師	8	0	8	視能訓練士	17		その他	0
助産師	48	0.8	48.8	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	1,125	20.7	1,145.7	臨床工学士	27	医療社会事業従事者	16	
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	26	
歯科衛生士	6	0	6	歯科技工士	2	事務職員	332	
管理栄養士	27	0.6	27.6	診療放射線技師	92	その他の職員	24	

1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	58	眼科専門医	13
外科専門医	43	耳鼻咽喉科専門医	7
精神科専門医	8	放射線科専門医	20
小児科専門医	27	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	11	整形外科専門医	11
泌尿器科専門医	5	麻酔科専門医	23
産婦人科専門医	11	救急科専門医	8
		合計	254

1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

(注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (山本 謙吾) 任命年月日 令和 6 年 9 月 1 日

医療安全管理委員会  
委員長  
2021年9月～継続中(病院長として)

院内病因死因(M&M)検討会委員  
委員  
2021年9月～継続中(病院長として)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	774 人	12.3 人	786 人
1日当たり平均外来患者数	2,487.9 人	125 人	2,612.9 人
1日当たり平均調剤数	1,833		剤
必要医師数	221.146		人
必要歯科医師数	8.25		人
必要薬剤師数	26		人
必要(准)看護師数	470		人

1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,437.97 m <sup>2</sup>	鉄骨造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	32 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数		178.99 m <sup>2</sup> 台	病床数	11 床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名			46.81	m <sup>2</sup>	
化学検査室	149.84 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備)	生化学自動分析装置全自動化学発光免疫測定装置		
細菌検査室	96.36 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備)	微生物感受性分析装置 血液培養全自動分析装置		
病理検査室	431.12 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備)	排気機能付切出しシンク、自動染色封入装置など		
病理解剖室	75.02 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備)	排気装置付L型解剖台など		
研究室	1,470.26 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備)			
講義室	1,294.05 m <sup>2</sup>	鉄骨造	室数	14 室	収容定員	991 人
図書室	686.61 m <sup>2</sup>	鉄骨造	室数	1 室	蔵書数	131,916 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.4	%	逆紹介率	57.8	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		27,553		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		21,452		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		3,032		人
	D: 初診の患者の数		37,117		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
落合 和徳	医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院 常勤顧問	○	東京慈恵会医科大学附 属病院副院長（医療安 全担当）としての勤務 経験があり、医療安全 に関する学会理事及び 婦人科領域における代 表者を務めるなど公職 経験も豊富であり、専 門的識見を有する者	無	1. 医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を有 する者その他の学識経験 を有する者
安原 幸彦	東京南部法律事務所 弁護士		弁護士として法律事務 所に勤務しており、医 療過誤訴訟等の経験や 医療に係る法律に関す る識見を有する者	無	1. 医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を有 する者その他の学識経験 を有する者
桑原 公平	西新宿六丁目町会 会長		建設系一般事業会社で の勤務経験を有し、区 議会議員を経て近隣地 区町会長を現任する、 医療を受ける者の一般 的な観点から発言がで きる、非医療従事者に 該当する者	無	2. 医療を受ける者その 他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)

- 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 (注) 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
大学・病院ホームページ	





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	切除不能局所進行膵癌に対する高密度焦点式超音波療法	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 切除不能局所進行膵癌に対する高密度焦点式超音波療法			
医療技術名	悪性十二指腸閉塞に対する超音波内視鏡下胃空腸吻合術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 悪性胃・十二指腸狭窄に対してHot AXIOSシステムを用いて超音波内視鏡下胃空腸吻合術を行う			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	2
取扱い患者数の合計(人)	16

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	下垂体性PRL分泌亢進症	6
2	筋萎縮性側索硬化症	10	57	クッシング病	2
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
4	進行性核上性麻痺	13	59	下垂体前葉機能低下症	38
5	パーキンソン病	182	60	アジソン病	2
6	大脳皮質基底核変性症	3	61	サルコイドーシス	102
7	重症筋無力症	122	62	特発性間質性肺炎	27
8	視神経脊髄炎	112	63	肺動脈性肺高血圧症	10
9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	5	64	肺静脈閉塞症	2
10	封入体筋炎	1	65	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	55
11	多系統萎縮症	9	66	リンパ脈管筋腫症	2
12	脊髄小脳変性症	17	67	網膜色素変性症	33
13	ミトコンドリア病	4	68	特発性門脈圧亢進症	1
14	もやもや病	18	69	原発性胆汁性肝硬変	13
15	進行性多巣性白質脳症	2	70	原発性硬化性胆管炎	6
16	全身性アミロイドーシス	2	71	自己免疫性肝炎	22
17	ベスレムミオパチー	1	72	クローン病	28
18	神経線維腫症	4	73	潰瘍性大腸炎	100
19	天疱瘡	3	74	好酸球性消化管疾患	9
20	汎発型膿疱性乾癬	15	75	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	1
21	スティーヴンス・ジョンソン症候群	3	76	CFC症候群	2
22	中毒性表皮壊死症	1	77	コステロ症候群	1
23	高安動脈炎	5	78	チャージ症候群	3
24	巨細胞性動脈炎	8	79	クリオピリン関連周期熱症候群	1
25	結節性多発動脈炎	6	80	非典型溶血性尿毒症症候群	1
26	顕微鏡的多発血管炎	17	81	筋ジストロフィー	3
27	多発血管炎性肉芽腫症	15	82	遺伝性周期性四肢麻痺	1
28	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	83	脊髄空洞症	2
29	悪性関節リウマチ	6	84	前頭側頭葉変性症	1
30	バージャー病	9	85	痙攣重積型二相性急性脳症	1
31	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	86	アレキサンダー病	1
32	全身性エリテマトーデス	188	87	ドラベ症候群	1
33	多発性筋炎	40	88	ミオクロニー欠神てんかん	1
34	全身性強皮症	31	89	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1
35	混合性結合組織病	9	90	レノックス・ガストー症候群	1
36	シェーグレン症候群	178	91	ウエスト症候群	11
37	成人スチル病	11	92	片側痙攣	17
38	再発性多発軟骨炎	4	93	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	1
39	ベーチェット病	85	94	スタージ・ウェーバ症候群	2
40	特発性拡張型心筋症	26	95	結節性硬化症	14
41	肥大型心筋症	36	96	家族性良性慢性天疱瘡	5
42	再生不良性貧血	12	97	後天性表皮水疱症	4
43	自己免疫性溶血性貧血	11	98	特発性後天性全身性無汗症	6
44	発作性夜間ヘモグロビン尿症	6	99	弾性線維性仮性黄色腫	3
45	特発性血小板減少性紫斑病	39	100	マルファン症候群	19
46	血栓性血小板減少性紫斑病	3	101	エーラス・ダンロス症候群	17
47	原発性免疫不全症候群	4	102	ウィルソン病	19
48	IgA腎症	45	103	ATR-X症候群	1
49	多発性嚢胞腎	23	104	クルーゾン症候群	2
50	黄色靱帯骨化症	6	105	多脾症候群	1
51	後縦靱帯骨化症	8	106	プラダー・ウィリ症候群	3
52	広範脊柱管狭窄症	1	107	ソトス症候群	1
53	特発性大腿骨頭壊死	19	108	スーナン症候群	3
54	下垂体性ADH分泌異常症	14	109	アンジェルマン症候群	2
55	下垂体性TSH分泌亢進症	1	110	修正大血管転位症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	三尖弁閉鎖症	2	166		
112	ファロー四徴症	4	167		
113	両大血管右室起始症	3	168		
114	アルポート症候群	1	169		
115	急速進行性糸球体腎炎	14	170		
116	一次性ネフローゼ症候群	4	171		
117	紫斑病性腎炎	4	172		
118	間質性膀胱炎(ハンナ型)	15	173		
119	オスラー病	2	174		
120	閉塞性細気管支炎	2	175		
121	副甲状腺機能低下症	32	176		
122	ビタミンD抵抗性くる病	2	177		
123	家族性地中海熱	15	178		
124	化膿性無菌性関節炎	13	179		
125	慢性再発性多発性骨髄炎	1	180		
126	強直性脊椎炎	13	181		
127	骨形成不全症	2	182		
128	後天性赤芽球癆	1	183		
129	自己免疫性出血病XIII	2	184		
130	胆道閉鎖症	3	185		
131	アラジール症候群	1	186		
132	IgG4関連疾患	51	187		
133	黄斑ジストロフィー	7	188		
134	レーベル遺伝性視神経症	1	189		
135	若年発症型両側性感音難聴	16	190		
136	遅発性内リンパ水腫	1	191		
137	好酸球性副鼻腔炎	53	192		
138	進行性白質脳症	1	193		
139	先天性僧帽弁狭窄症	1	194		
140	先天性肺静脈狭窄症	1	195		
141	シトリン欠損症	1	196		
142	遺伝性自己炎症疾患	1	197		
143	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	3	198		
144	無虹彩症	1	199		
145	特発性多中心性キャッスルマン病	1	200		
146	膠様滴状角膜ジストロフィー	1	201		
147	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	1	202		
148			203		
149			204		
150			205		
151			206		
152			207		
153			208		
154			209		
155			210		
156			211		
157			212		
158			213		
159			214		
160			215		
161			216		
162			217		
163			218		
164			219		
165			220		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	147
合計患者数(人)	2,291

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
医療DX推進体制整備加算	重症患者初期支援充実加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
歯科外来診療医療安全対策加算2	ハイリスク妊娠管理加算
歯科外来診療感染対策加算3	ハイリスク分娩管理加算
歯科診療特別対応連携加算	呼吸ケアチーム加算
特定機能病院入院基本料(一般病棟の場合)7対1	後発医薬品使用体制加算1
特定機能病院入院基本料(精神病棟の場合)13対1	病棟薬剤業務実施加算1
救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算2
超急性期脳卒中加算	データ提出加算
診療録管理体制加算2	入退院支援加算1
医師事務作業補助体制加算1 40対1	認知症ケア加算【加算1】
急性期看護補助体制加算 25対1	せん妄ハイリスク患者ケア加算
看護職員夜間配置加算	精神疾患診療体制加算
看護補助加算2	精神科急性期医師配置加算
療養環境加算	排尿自立支援加算
重症者等療養環境特別加算	地域医療体制確保加算
無菌治療室管理加算1	救命救急入院料4
放射線治療室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	特定集中治療室管理料1
緩和ケア診療加算	総合周産期特定集中治療室管理料
精神科身体合併症管理加算	小児入院医療管理料1
精神科リエゾンチーム加算	
摂食障害入院医療管理加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染対策向上加算1	
患者サポート体制充実加算	

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	外来栄養食事指導料の注2に規定する基準
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)
糖尿病合併症管理料	がん性疼痛緩和指導管理料
がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ	がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ	外来緩和ケア管理料
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料	一般不妊治療管理料
生殖補助医療管理料1	二次性骨折予防継続管理料1
二次性骨折予防継続管理料3	下肢創傷処置管理料
慢性腎臓病透析予防指導管理料	院内トリアージ実施料
外来放射線照射診療料	外来腫瘍化学療法診療料1
外来腫瘍化学療法診療料の注8に規定する連携充実加算	外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算
ニコチン依存症管理料	がん治療連携計画策定料
外来排尿自立指導料	肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料	医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2	医療機器安全管理料(歯科)
歯科治療時医療管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	遺伝学的検査の注1に規定する基準
染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査	骨髄微小残存病変量測定
BRCA1/2遺伝子検査	がんゲノムプロファイリング検査
先天性代謝異常症検査	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	検体検査管理加算(1)
検体検査管理加算(4)	国際標準検査管理加算

遺伝カウンセリング加算	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験	長期継続頭蓋内脳波検査
光トポグラフィー	終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)
神経学的検査	補聴器適合検査
黄斑局所網膜電図	全視野精密網膜電図
ロービジョン検査判断料	コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査	内服・点滴誘発試験
経頸静脈的肝生検	前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
精密触覚機能検査	画像診断管理加算1
画像診断管理加算4	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算	外傷全身CT加算
心臓MRI撮影加算	乳房MRI撮影加算
小児鎮静下MRI撮影加算	頭部MRI撮影加算
肝エラストグラフィ加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1	無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(1)	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)
運動器リハビリテーション料(1)	呼吸器リハビリテーション料(1)
がん患者リハビリテーション料	歯科口腔リハビリテーション料2
児童思春期精神科専門管理加算	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導 管理料に限る。)
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	エタノールの局所注入(甲状腺)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	人工腎臓
導入期加算 2及び腎代替療法実績加算	透析水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
難治性抗コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	ストーマ合併症加算
歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	光学印象
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	歯科技工加算1及び2
皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節加算	皮膚移植術(死体)
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)

椎間板内酵素注入療法	腫瘍脊椎骨全摘術
緊急穿頭血腫除去術	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
舌下神経電気刺激装置植込術	角結膜悪性腫瘍切除術
角膜移植術(内皮移植加算)	羊膜移植術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	緑内障手術(流出路再建術(眼内法))
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
網膜再建術	経外耳的内視鏡下鼓室形成術
人工中耳植込術	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
顎関節人工関節全置換術(歯科)	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(乳癌センチネルリンパ節生検加算1)
乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(乳癌センチネルリンパ節生検加算2)	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡下手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	内視鏡下筋層切開術
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
胸腔鏡下弁形成術	胸腔鏡下弁置換術
経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的な大動脈弁置換術)	経皮的僧帽弁クリップ術
不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの))	不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの))
経皮的中隔心筋焼灼術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	補助人工心臓
経皮的下肢動脈形成術	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	体外衝撃波胝石破碎術
腹腔鏡下胝腫瘍摘出術	腹腔鏡下胝体尾部腫瘍切除術
腹腔鏡下胝体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胝中央切除術
腹腔鏡下胝頭部腫瘍切除術	腹腔鏡下胝頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
精巣温存手術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下仙骨腫固定術	腹腔鏡下仙骨腫固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	体外式膜型人工肺管理料
胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
輸血管理料1	自己生体組織接着剤作成術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
歯周組織再生誘導手術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術

口腔粘膜血管腫凝固術	レーザー機器加算の施設基準
麻酔管理料(1)	麻酔管理料(2)
放射線治療専任加算	高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算	強度変調放射線治療 (IMRT)
画像誘導放射線治療加算 (IGRT)	体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
画像誘導密封小線源治療加算	保険医療機関間の連携による病理診断
病理診断管理加算2	悪性腫瘍病理組織標本加算
口腔病理診断管理加算2	クラウン・ブリッジ維持管理料
歯科矯正診断料	看護職員処遇改善評価料 70
外来・在宅ベースアップ評価料(1)	歯科外来・在宅ベースアップ評価料(1)
入院ベースアップ評価料 88	



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
屈筋腱・腱鞘障害に対する機能再建法の開発:生体工学的観点から	西田 淳	整形外科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
黄熱ワクチン接種の効果に関する研究	福島 慎二	渡航者医療センター	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔機能低下症およびロコモティブシンドロームと動脈硬化の関連	松本 知沙	健診予防医学センター	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
不眠症状からプレゼンティーズムを高精度で予測するスクリーニング基準の開発	高野 裕太	睡眠学寄附講座	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
不可逆電気穿孔法による免疫賦活効果を応用した新規がん治療法の開発	杉本 勝俊	消化器内科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ALK陽性ALCLにおけるTP53欠失が与える臨床的影響の解明と層別化治療の構築	片桐 誠一朗	血液内科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
進行再発大腸癌診断におけるメタボロームを用いた新規マーカーの開発	勝又 健次	消化器・小児外科学	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
うつ病発症におけるレジリアンスの役割に関する研究	井上 猛	精神医学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
UV照射で可逆的に拡張-収縮する胆道ドレナージシステムの創製	殿塚 亮祐	消化器内科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
半永久開存性を示すradioactiveなハイドロゲル胆管システムの創製	土屋 貴愛	消化器内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
若年性僧帽弁逸脱症における3次元の形態異常とその病因遺伝子バリエーションに関する検討	武井 康悦	循環器内科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ハイリスクグループの肥大型心筋症における病態形成機序の解明	稲垣 夏子	循環器内科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
第VIII因子の半減期に関わる遺伝子多型の解析と応用	稲葉 浩	臨床検査医学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がん関連血栓症に対するニューロキニン1受容体スプライズバリエーション発現の影響の検討	濱田 宏	麻酔科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
麻酔薬による脳保護あるいは脳障害作用のメカニズム解明	柴田 勝一郎	麻酔科学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
培養細胞を用いた機械的肺障害モデルにおけるaquaporinの役割と治療の検討	石井 友理	救急・災害医学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
色彩工学を加味した『医療用tattooを用いた乳輪色素の再建』の基盤確立	小宮 貴子	形成外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
高度架橋ポリエチレン製人工股関節の超長期耐用性の実現を目指した材料設計の最適化	立岩 俊之	整形外科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
前頭前野被刺激反応による依存症としての真のゲーム障害の特定および診断スコアの開発	呉 宗憲	小児科・思春期科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
内視鏡外科手術における教育評価システム開発に向けた手術効率性分析	永川 裕一	消化器・小児外科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
代謝を介した腫瘍免疫機構の解析に基づいた骨髄腫予後因子同定と治療層別化の探索	田中 裕子	血液内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
広範なライフステージで糖尿病が認知機能に与える影響の解明	鈴木 亮	糖尿病・代謝・内分泌内科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小崎過成長症候群患者iPS細胞由来脳血液関門モデルを用いた疾患メカニズムの解明	奥野 博庸	小児科・思春期科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
専門的口腔ケアによる心不全患者の予後改善効果に関する検討	椎名 一紀	循環器内科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

COPD病態におけるオートファジーとガレクチン8の役割の全体像の解明	河野 雄太	呼吸器内科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
カベオラ介在性アルブミンエンドサイトーシス阻害による普遍的なCKD治療薬の探索	森山 能仁	腎臓内科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬の病態形成におけるTGF-βシグナルの役割	大久保 ゆかり	皮膚科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Bcr-Ablチロシンキナーゼ阻害薬外用剤におけるアトピー性皮膚炎の治療効果	伊藤 友章	皮膚科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
メタボローム解析を用いた肝転移切除後の再発予測バイオマーカーの探索	石崎 哲央	消化器・小児外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小細胞肺癌における神経変性疾患関連分子の役割の解明と新規個別化治療への応用	嶋田 善久	呼吸器・甲状腺外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
プロポフォール注入症候群の発症メカニズムの解明	松本 りか	麻酔科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
冷凍保存法と飽和食塩溶液固定法を用いたブタ臓器による外傷手術手技研修の開発応用	本間 宙	救急・災害医学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ブタ臓器を用いたACS領域の腹腔鏡手術手技研修システムの開発	谷野 雄亮	救急・災害医学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ペリサイト制御とアポトーシス抑制によるけいれん重積型急性脳症への新規治療戦略	山中 岳	小児科・思春期科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
悪性頭蓋内腫瘍に対する光ファイバーを用いた光線力学的療法の開発	深見 真二郎	脳神経外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
後縦靭帯骨化症における異所性骨化制御の分子機構の解明	松岡 佑嗣	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
尿中miRNAを用いた尿路上皮癌に対する免疫治療効果予測バイオマーカーの開発	平澤 陽介	泌尿器科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
子宮筋腫と不妊症に対する産婦人科時間生物学の応用	小野 政徳	産科婦人科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
母体糖尿病が児にもたらす神経発達障害の腸内細菌叢を用いた新規バイオマーカーの探索	佐々木 順子 (島順子)	糖尿病・代謝・内分泌内科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ドラッグリポジショニングによる眼部悪性腫瘍の新規治療法の開発	後藤 浩	眼科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
人工知能とオミックス解析を用いたぶどう膜炎の新規診断法の開発	臼井 嘉彦	眼科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗エストロゲン作用に着目した被膜拘縮予防法の開発	石川 孝	乳腺科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
瘢痕組織、老化皮膚への弾性繊維の誘導	井田 夕紀子	形成外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
顎骨周囲軟組織変性をターゲットにした新たなMRONJ発症関連因子の検索	河野 通秀	口腔外科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
破骨細胞由来エクソソーム解析による薬剤関連顎骨壊死発症メカニズム解明への挑戦	近津 大地	口腔外科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
低体力者下腿切断に対する脚運動モデルの効果検証ー切断肢運動循環と骨格筋代謝からー	長田 卓也	リハビリテーションセンター	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト膵組織マイクロバイオームによる膵がん特異的菌種同定と新規がん発症機序の解明	祖父尼 淳	消化器内科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肺癌骨転移の克服を目指した血清エクソソームによる新しい治療法の開発	工藤 勇人	呼吸器・甲状腺外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
睡眠衛生・睡眠の問題の評価のための包括的質問紙の開発と妥当性の検証	志村 哲祥	精神医学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
経皮経肝門脈塞栓術におけるNLEとエタノールによる塞栓後肝腫大効果の比較検討	安富(村木)美香	放射線医学	3,770,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
院内死亡症例の死後CTによる死因診断法の確立	石田 尚利	放射線医学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

ヒト胃幹細胞の胃癌起源細胞への胃内細菌叢依存性転化機序の解析	新倉 量太	消化器内視鏡学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
高圧力に着目した肺動脈性肺高血圧症病態形成におけるStanniocalcin1の役割	小神 真梨子	呼吸器内科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
毛包の成長期を誘導する新規円形脱毛症の治療法の確立	原田 和俊	皮膚科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
骨髄増殖性腫瘍幹細胞におけるCD44を中心とする接着因子発現・機能の調節機構解明	後藤 明彦	血液内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
大動脈緊急症における診療体制・拠点施設の構築に向けた診療の質的評価	荻野 均	心臓血管外科学	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ミトコンドリア機能を基軸に骨格筋が周術期認知機能障害へ及ぼす影響の原因と防止対策	合谷木 徹	麻酔科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ミトコンドリアバイオジェネシス活性化による敗血症関連脳症治療法確立への戦略的考究	内野 博之	麻酔科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ラット椎間板変性モデルを用いたDUSP-1デリバリーによる病態制御の検討	遠藤 健司	整形外科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
若年がん男児の妊孕性温存を目指す前臨床研究:精巣凍結保存・移植による生殖能回復	本橋 秀之	疾患モデル研究センター	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
超長寿命型人工膝関節開発のためのデラミネーション破壊抑制に関する研究	高橋 康仁	骨・関節バイオマテリアル研究寄附講座	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
3T-MRI頭頸部画像でリンパ節転移の自動診断人工ニューラルネットワークの開発	勇内山 大介	放射線医学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脳内炎症伝播の司令塔ペリサイトから「熱性けいれんのてんかん原性」に挑む	森地 振一郎	小児科・思春期科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
包括的経過からみる精神科訪問診療の意義・役割・限界—初診から転帰までの解析	岩谷 潤	精神医学	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
4D-CTと呼吸機能検査を用いた放射線肺臓炎の定量化と呼吸機能変化予測	糸永 知広	放射線医学	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
人工知能のバイオシミュレーションによる膵癌細胞機能の解明と個別化療法への応用	向井 俊太郎	消化器内科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
胃がんにおける自律神経の分布が予後にもたらす影響について	岩崎 謙一	消化器・小児外科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
薬剤関連顎骨壊死を解明する—高感度量子ビームを用いた挑戦	田村 知子	口腔外科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
骨免疫学的アプローチによるインプラント周囲炎の新規治療法の基礎的研究	濱田 勇人	口腔外科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
中高年者由来ヒト歯髄幹細胞を用いた新規歯槽骨再生療法の前臨床研究	佐藤 麻梨香	口腔外科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ジスルフィド消失TPO変異による先天性甲状腺機能低下とERストレス発生機序の究明	谷古宇 史芳	糖尿病・代謝・内分泌内科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
AI形態解析とリンパ節転移関連遺伝子解析の統合化による肺扁平上皮癌悪性化機構解明	大森 智一	呼吸器・甲状腺外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
幹細胞を用いた妊娠高血圧症候群への病態アプローチ	小島 淳哉	産科婦人科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトOMIGTにおけるAIを用いた神経発達症新規バイオマーカーの検索	佐々木 徹	産科婦人科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
活性イオウ分子種に着目したがん化学療法誘発口腔粘膜炎の新規治療薬の開発	金子 児太郎	口腔外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
集中治療室における超音波診断装置を用いた新たな呼吸理学療法評価の確立と効果検証	直井 俊祐	リハビリテーションセンター	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヤングケアラーのWell-beingに寄与する因子と睡眠を指標とするケア限界点の検討	小野 美樹	精神医学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
マスク下で遊ぶ子どもたち 生物学的客観指標を用いて前頭前野機能への影響を解明する	山田 ひかり	小児科・思春期科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

月経前不快気分障害発症における生物学的因子と心理社会的因子の関与	森下 千尋	精神医学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
分散型自律組織 (DAO)における医療画像情報の管理運用における実施モデルの研究	田島 祐	放射線医学	4,160,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
拡張能力を付与した胆管ドレナージ用スパイラル型チューブステントの開発	松波 幸寿	消化器内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
近赤外光免疫療法(NIR-PIT)による肺扁平上皮癌への応用に向けた基礎研究	古本 秀行	呼吸器・甲状腺外科学	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
蛍光多重免疫染色を用いた免疫関連有害事象発症のリスクファクターの解明研究	雨宮 亮介	呼吸器・甲状腺外科学	2,990,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
幼若脳に対する全身麻酔薬の神経毒性と吸入酸素濃度との関連の解析	魚島 直美	麻酔科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
機械学習による眼内液の免疫液性因子を用いた眼疾患の分類予測	禰津 直也	眼科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
RNAシーケンスを用いた眼内リンパ腫における網羅的遺伝子解析	朝蔭 正樹	眼科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
角膜上皮におけるPiezo分子の発現および機能解析	嶺崎 輝海	眼科学	2,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
シルクエラスチンを用いた新しい脂肪移植の方法の確立	鈴木 知佳	形成外科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
基質石灰化機構に着目した口腔癌の顎骨浸潤メカニズムの解明	藤居 泰行	口腔外科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
XRとSimilar Real Patient Modelを用いた新規歯科インプラント手術教育法の開発	池畑 直樹	口腔外科学	3,250,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
医療施設の水道シンク排水口管理における新たな感染対策指針の創出	中村 造	感染制御部	3,120,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
解剖学的2重束前十字靭帯再建術における移植腱と固定部間距離の骨孔拡大への影響	関 健	整形外科	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究	天野 景裕	臨床検査医学	3,250,000	補委	厚生労働省
国内未承認エイズ治療薬等を用いた HIV 感染症治療薬及び HIV 感染症至適治療法の開発に係る応用研究	天野 景裕	臨床検査医学	100,000,000	補委	厚生労働省
HIV感染者を含む血友病患者の高齢化に伴う新たな合併症に関する研究	木内 英	臨床検査医学	11,700,000	補委	厚生労働省
特定機能病院において職員が共有すべき院内情報の効率的かつ標準的な周知方法の明確化のための研究	浦松 雅史	医療の質・安全管理学分野	3,078,000	補委	厚生労働省
Mpoxに対する予防・治療法等に資する研究 (23HA2019)	木内 英	臨床検査医学	11,570,000	補委	厚生労働省
生殖医療における時間生物学の応用	小野 政徳	産婦人科学	500,000	補委	公益財団法人杉山記念財団
急性胆嚢炎に対する超音波内視鏡下経鼻胆嚢ドレナージ法の有用性と安全性を検証する無作為化比較試験	永井 一正	消化器内科学	1,000,000	補委	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
ヒト微生物叢を介した腸管免疫応答から紐解くHIV感染者の非AIDS関連がんの発症機序	永田 尚義	消化器内視鏡学	9,750,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん遺伝子MYCの転写を標的とした治療薬の開発	山田 哲司	消化器・小児外科学	85,540,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内エコシステムから紐解く薬剤耐性菌出現機構の解明と新たな耐性菌制御法	永田 尚義	消化器内視鏡学	13,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
患者iPS細胞由来視床下部-下垂体オルガノイドを用いたPrader-Willi症候群の病態解明およびエピゲノム編集を用いた治療戦略の構築	奥野 博庸	小児科・思春期科学	40,287,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	【資料1】				
2					
3					
4					
5					
6					
～					
70					
～					

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なるものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月 等	論文 種別
1	Ishiwari M	呼吸器内科学分野	Prognostic significance of antifibrotic agents in idiopathic pulmonary fibrosis after initiation of long-term oxygen therapy	Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis. 2024 Mar 26;41(1):e2024002.	Original Article
2	Toriyama K	呼吸器内科学分野	In vitro anticancer effect of azithromycin targeting hypoxic lung cancer cells via the inhibition of mitophagy	Oncol Lett. 2023 Nov 10;27(1):12. doi: 10.3892/ol.2023.	Original Article
3	Kogami M	呼吸器内科学分野	Fenofibrate attenuates the cytotoxic effect of cisplatin on lung cancer cells by enhancing the antioxidant defense system in vitro	Oncol Lett . 2023 Jun 6;26(1):313. doi: 10.3892/ol.2023.13899.	Original Article
4	Saito S	腎臓内科学分野	MiR-34a induces myofibroblast differentiation from renal fibroblasts	Clin Exp Nephrol. 2023 ;27:411-418.	Original Article
5	Tateiwa T	整形外科科学分野	Bacterial Contamination in Total Joint Replacement: Should We Change into a New Set of Clean Scrub Suits Whenever Entering the Operating Room?	Life (Basel). 13(7): 1615, 2023	Original Article
6	Matsuoka T	整形外科科学分野	In vivo creep and wear performance of vitamin-E-diffused highly crosslinked polyethylene in total hip arthroplasty.	Arch Orthop Trauma Surg. 143(12): 7195-7203, 2023	Original Article
7	Endo K	整形外科科学分野	Contrast-enhanced Magnetic Resonance Imaging in Patients with Dropped Head Syndrome.	Spine (Phila Pa 1976). 49(6): 385-389, 2024	Original Article
8	Tateiwa T	整形外科科学分野	Early Postoperative Change in Hip Rotation Angle and Factors Contributing to It for Patients Undergoing Total Hip Arthroplasty.	Orthopedics. 2024 May-Jun;47(3):e114-e118. doi: 10.3928/01477447-20231220-01. Epub 2023 Dec 28.	Original Article
9	Iwaki T	整形外科科学分野	Investigation of the effectiveness of intermittent electromagnetic field stimulation for early internal cartilaginous ossification in prechondrocytic ATDC5 cells.	Bioelectromagnetic s. 2024 Jul;45(5):226-234. doi: 10.1002/bem.22501. Epub 2024 Mar 28.	Original Article
10	Amemiya R	呼吸器・甲状腺外科学分野	Temporary stenting for anastomotic stenosis after tracheal resection of adenoid cystic carcinoma: A case report	Ann Thorac Cardiovasc Surg 29(5): 256-260, 2023	Case report
11	Kanno C	呼吸器・甲状腺外科学分野	Sublobar resection utilizing near-infrared thoracoscopy with intravenous indocyanine green for intralobar pulmonary sequestration: a case report and literature review	Surg Case Rep 9(1): 176, 2023 (オンライン)	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
12	Takada I	呼吸器・甲状腺外科学分野	A rare case of chest wall castleman's disease with calcification	Ann Thorac Cardiovasc Surg 29(6): 319-322, 2023	Case report
13	Amemiya R	呼吸器・甲状腺外科学分野	Metachronous Primary Lung Cancer Occurring during the Spontaneous Regression of Locally Advanced Lung Cancer: A Rare Case Report	Ann Thorac Cardiovasc Surg 30(2): 22-00138, 2024	Case report
14	Kawaguchi Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Impact of lymph node dissection on the efficacy of immune checkpoint inhibitors in patients with postoperative recurrence of non-small cell lung cancer	J Thorac Dis 16(3): 1960-1970, 2024	Original Article
15	Nagamatsu Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Aerosol and Droplet Dispersion Control During Bronchoscopy Using a Newly Developed Oxygen Mask	Respiratory Endoscopy 2(1): 25-31, 2024	Original Article
16	Kudo Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Navigation of Tumor Location and Intersegmental Planes utilizing Mixed Reality in Video-Assisted Thoracic Surgery for Non-Small Cell Lung Cancer: A Case of Right S2 Segmentectomy	Video-Assisted Thoracic Surgery 9: 13, 2024 (オンライン)	Case report
17	Eriguchi D	呼吸器・甲状腺外科学分野	Surgical technique for preventing lung torsion after right upper and lower bilobectomy	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg 36(5): ivad069, 2023 (オンライン)	Case report
18	Kanno C	呼吸器・甲状腺外科学分野	Association between pathological infiltrative tumor growth pattern and prognosis in patients with resected lung squamous cell carcinoma	Eur J Surg Oncol. 50(3): 107973, 2024	Original Article
19	Furukawa K	呼吸器・甲状腺外科学分野	Advances in Photodynamic Therapy for Central-type Lung Cancer: Clinical Outcomes and Adverse Events.	Respir Endosc 2(1): 1-9, 2024	Review
20	Hirai H	人体病理学分野	Prognostic value and clinicopathological roles of the tumor immune microenvironment in salivary duct carcinoma	Virchows Arch. 2023 Sep;483(3):367-379	Original Article
21	Obikane H	人体病理学分野	Histopathological Evaluation of Pulmonary Thromboendarterectomy Specimens of Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension	J Atheroscler Thromb. 2023 Nov 1; 30(11):1661-1673	Original Article
22	Shishido-Hara Y	人体病理学分野	Pathology for severe inflammatory PML with PD1/PD-L1 expression of favorable prognosis: What's a prognostic factor for PML-IRIS?	Neuropathology. 2024 Feb;44(1):47-58	Case report
23	Honda H	人体病理学分野	High-grade Solid Pseudopapillary Neoplasms of the Pancreas: Distinct Clinicopathological Malignant Features With Intriguing Gene Alterations through a Comparison With the Conventional Type	Am J Surg Pathol. 2024 Mar 1; 48(3):353-363	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
24	Tsukahara K	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Useful combination of Gehanno method, polyglycolic acid sheet and fibrin glue for prevention of postoperative dysfunction after soft palate resection with TORS.	Auris Nasus Larynx 51(2):301-304. doi: 10.1016/j.anl.2023.11.001.	Original Article
25	Okamoto I	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Two Cases of Emergency Tracheostomy After Head and Neck Photoimmunotherapy.	Cancer Diagnosis & Prognosis 4: 85-90, 2024. 1. 3	Case report
26	Kondo T	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Identification of Optimal Tissue-Marking Dye Color for Pathological Evaluation in Fluorescence Imaging Using IRDye800CW.	Molecular Imaging and Biology 26: 162-172, 2024. 2	Original Article
27	Okada T	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Effects of Pembrolizumab in Recurrent/Metastatic Squamous Cell Head and Neck Carcinoma: A Multicenter Retrospective Study.	Anticancer Research 43(6): 2717-2724, 2023. 6	Original Article
28	Hirasawa K	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Effectiveness of Shosaikoto for subacute necrotizing lymphadenitis : a retrospective study.	International Medical Journal 29: 105-108, 2023. 6. 1	Original Article
29	Tanaka H	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Subsequent chemotherapy with paclitaxel plus cetuximab-based chemotherapy following immune checkpoint inhibitor in recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck.	Frontiers in Oncology 13: 1221352, 2023. 11. 21	Original Article
30	Hanyu K	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	A Case of Successful Treatment with an Immune Checkpoint Inhibitor after Head and Neck Photoimmunotherapy.	Case Report in Oncology: 17(1):169-174. 2024. 1. 30	Case report
31	Yano T	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Listening Evaluation of Cochlear Implant Users -Comparison of Subjective and Objective Evaluation by visual analog scale.	The Journal of Laryngology & Otology 138(3): 297-300. Published online 2023 Aug 30. doi: 10.1017/S0022215123001445	Original Article
32	Yamashita G	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Efficacy of Nivolumab and Pembrolizumabin Platinum-sensitive Recurrent or Metastatic Head and Neck Squamous Cell Carcinoma.	Anticancer Research 43(8): 3679-3683, 2023. 8	Original Article
33	Nishimura M	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Lemierre's Syndrome after Head and Neck Photoimmunotherapy for Local Recurrence of Nasopharyngeal Carcinoma.	Case Report in Oncology: 17(1):180-185. 2024. 2. 1	Case report
34	Maezumi S	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	A case of laryngeal cryptococcosis that responded to itraconazole.	Case Report in Otolaryngology: 8847838. doi: 10.1155/2023/8847838. eCollection, 2023. 4. 12	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
35	Yamakura T	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	A Case of Oropharyngeal Carcinoma with an Oblique Neck that Benefited from Transoral Robotic Surgery.	Case Reports in Oncology 16(1): 930-934, 2023. 9. 19	Case report
36	Tagaya R	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Postoperative Pharyngeal Fistula Diagnosed by Prone Position Computed Tomography With Oral Contrast Agent: Case Report.	In vivo 37:2845-2848, 2023. 11. 3	Case report
37	Kawai T	消化器内視鏡学分野	Long-term safety and effectiveness of vonoprazan for prevention of gastric and duodenal ulcer recurrence in patients on nonsteroidal anti-inflammatory drugs in Japan: a 12-month post-marketing surveillance study	Expert Opin Drug Saf 22(5): 425-431, 2023	Original Article
38	Nagata N	消化器内視鏡学分野	Human gut microbiota and its metabolites impact immune responses in COVID-19 and its complications	Gastroenterology 164(2): 272-288, 2023	Original Article
39	Iwata E	消化器内視鏡学分野	Improvement of dyspeptic symptoms after Helicobacter pylori eradication therapy in Japanese patients	JGH Open 7(12): 855-862, 2023	Original Article
40	Sugimoto M	消化器内視鏡学分野	Assessment of delayed bleeding after endoscopic submucosal dissection of early-stage gastrointestinal tumors in patients receiving direct oral anticoagulants	World J Gastroentero 29(19): 2916-2931, 2023	Review
41	Kawai T	消化器内視鏡学分野	Advanced diagnostic endoscopy in the upper gastrointestinal tract: Review of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society core sessions	Dig Endosc 35(6): 711-717, 2023	Review
42	Fukami S	脳神経外科学分野	Photodynamic therapy using talaporfin sodium for non-totally resectable malignant glioma	Photodiagnosis Photodyn Ther. 45:103869. 2024	Original Article
43	Matsunaga K	脳神経外科学分野	Patient with Diffuse Midline Glioma, H3 K27-altered, Carrying an FGFR1 Mutation Who Experienced Thalamic Hemorrhage: A Case Report and Literature Review.	NMC Case Rep J 10:309-, 2023	Case report
44	Nagai K	脳神経外科学分野	Efficacy of interstitial photodynamic therapy using talaporfin sodium and a semiconductor laser for a mouse allograft glioma model	Sci Rep 14:9137, 2024	Original Article
45	Akimoto J	脳神経外科学分野	An enduring debate on gliomatosis cerebri	Brain Tumor Pathology 2023	Review
46	Matsushima K	脳神経外科学分野	Trigeminal Schwannoma Surgery: Challenges in Preserving Facial Sensation	Adv Tech Stand Neurosurg. 2023;46:95-107	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
47	Matsushima K	脳神経外科学分野	Telovelar/Transcerebellomedullary Fissure Approach: Giant Distal Posterior Inferior Cerebellar Artery Aneurysm, Epidermoid Cyst, and Brainstem Cavernoma: 2-Dimensional Operative Video	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2023, 1;25(6):e359-e360.	Case report
48	Okumura E	脳神経外科学分野	A Case of Acquired Factor XIII Deficiency with Systemic Lupus Erythematosus Diagnosed after Repeated Intracerebral Hemorrhages	NMC case report Journal 10, 121-124, 2023	Case report
49	Yokoyama T	脳神経外科学分野	Nonconvulsive Status Epilepticus Associated with Cerebral Hyperperfusion Syndrome after Carotid Endarterectomy: A Case Report	NMC case report Journal 10, 197-202, 2023	Case report
50	Takanashi K	脳神経外科学分野	A Case of Primary Central Nervous System Lymphoma That Developed in a Patient Receiving Fingolimod Therapy for Multiple Sclerosis	Cureus. 2023 Dec 26;15(12):e51108.	Case report
51	Onuki H	脳神経外科学分野	Efficacy of vagus nerve stimulation for drug-resistant epilepsy in a survivor of poor-grade subarachnoid hemorrhage: A case report	Epilepsy & Seizure .15 , 10-16, 2023	Case report
52	Umezu T	分子病理学分野	Characterization of circulating miRNAs in the treatment of primary liver tumors.	Cancer Rep (Hoboken). 2024 Feb;7(2):e1964	Original Article
53	Kurata A	分子病理学分野	Smooth muscle differentiation of coronary intima in autopsy tissues after sirolimus-eluting stent implantation.	Cardiovasc Pathol. 2023;66:107554.	Original Article
54	Matsubara S	泌尿器科学分野	Recurrence prediction in clear cell renal cell carcinoma using machine learning of quantitative nuclear features.	Am J Physiol Cell Physiol 322(2) C197-C204, 2022	Original Article
55	Miyagi T	薬理学分野	Differential toxicity and localization of arginine-rich C9ORF72 dipeptide repeat proteins depend on de-clustering of positive charges.	iScience. 26(6): 106957, 2023	Original Article
56	Saito S	分子病理学分野	MiR-34a induces myfibroblast differentiation from renal fibroblasts.	Clinical and Experimental Nephrology. 2023;27(5):411-418.	Original Article
57	Bin Shen	人工知能応用医療講座 (分子病理学分野)	Development of multiple AI pipeline that predict NAC response of breast cancer using H&E-stained tissues.	J Pathol Clin Res. 2023;9(3):182-194.	Original Article
58	Katagiri S, Furuya N, Akahane D, Chi S, Minami Y, Harada Y	血液内科学分野	et al. Gilteritinib Affects the Selection of Dominant Clones in Clonal Hematopoiesis: Sequential Genetic Analysis of an FLT3-ITD Positive AML Patient with Long-Term Gilteritinib Therapy.	Onco Targets Ther 2023; 16: 571-576.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月 等	論文 種別
59	Okabe S, Tanaka Y, Moriyama M, Gotoh A	血液内科学分野	WEE1 and PARP-1 play critical roles in myelodysplastic syndrome and acute myeloid leukemia treatment.	Cancer Cell Int. 2023;23:128.	Original Article
60	Okabe S, Gotoh A	血液内科学分野	Effect of asciminib and vitamin K2 on Abelson tyrosine-kinase-inhibitor-resistant chronic myelogenous leukemia cells.	BMC Cancer. 2023;23:827.	Original Article
61	Yamada A, Akahane D, Takeuchi S, Miyata K, Sato T, Gotoh A	血液内科学分野	Robot therapy aids mental health in patients with hematological malignancy during hematopoietic stem cell transplantation in a protective isolation unit.	Sci Rep. 2024;14:4737.	Original Article
62	Mitsuyuki T, Ando S, Sugimura A, Maki S, Sato K	成人看護学	Developing a communication skills scale in the initial oncology nursing consultation after a cancer diagnosis in Japan.	Journal of International Nursing Research, 3(1), e2022-0041. (オンライン)	Original Article
63	Shimoyama K	救急・災害医学分野	Association between obesity and mortality in critically ill COVID-19 patients requiring invasive mechanical ventilation: a multicenter retrospective observational study	Scientific reports13(1):11961 . doi: 10.1038/s41598- 023-39157-8.	Original Article
64	Homma H	救急・災害医学分野	Elective surgery for liver injury and misinserted tube into the inferior vena cava associated with chest tube replacement: A case report	Acute Medicine & Surgery 1(11):e943. doi:/10 .1002/ams2.943	Case report
65	Yamanaka G	小児科・思春期科学分野	Experimental and Clinical Investigation of Cytokines in Migraine: A Narrative Review.	Int J Mol Sci, 6;24(9):8343. 2023	Review
66	Kashiwagi Y	小児科・思春期科学分野	Association of the Mannose-Binding Lectin 2 BB Genotype with COVID-19-Related Mortality	Life, 13(2), 2023/1/30	Original Article
67	Morichi S	小児科・思春期科学分野	Clinical features of a pediatric case of recurrent mild encephalopathy with reversible splenial lesion (MERS) triggered by different infections	NEUROINFECTION, 28(1), 2023/7/21	Original Article
68	Akamatsu N	小児科・思春期科学分野	Long-term prognosis after low-dose peanut challenge for patients with a history of anaphylaxis.	Pediatric Allergy and Immunology, 34(10), 2023/10	Original Article
69	Ohno K	小児科・思春期科学分野	Pathology analysis of tonsils and exome analysis of Japanese patients with periodic fever, aphthous stomatitis, pharyngitis, and adenitis syndrome	J. Tokyo Med. Univ., 81(2), 2023/4/30	Original Article
70	Watanabe Y	小児科・思春期科学分野	Altered serum levels of platelet-derived growth factor receptor $\beta$ and cluster of differentiation 13 suggest a role for pericytes in West syndrome.	Brain Dev, 45(9), 2023/5	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月 等	論文 種別
71	Hasegawa R	小児科・思春期科学分野	Inflammatory bowel disease in children with MEFV gene variants.	J.Tokyo Med.Univ., 81(4), 2023/10	Original Article
72	Suzuki S	小児科・思春期科学分野	Atypical muscular manifestations in Andersen-Tawil Syndrome	J.Tokyo Med.Univ., 81(3), 2023/7/30	Case report
73	Sasamoto T	小児科・思春期科学分野	Referred shoulder pain caused by undifferentiated embryonal sarcoma of the liver	Pediatric international, 65(1), 2023/1	Case report
74	Watanabe Y	小児科・思春期科学分野	Pediatric Cutaneous Mastocytosis With Motor and Intellectual Delay.	Cureus, 15(2), 2023/2	Case report
75	Watanabe Y	小児科・思春期科学分野	Contact dermatitis caused by the eye shield used in phototherapy	BMJ Case Reports, 16(4), 2023/4/17,	Case report
76	Chida R	小児科・思春期科学分野	Neonatal frequent premature ventricular contraction	BMJ Case Reports, 16(2), 2023/2/28,	Case report
77	Chida R	小児科・思春期科学分野	Role of Multi-Angle Chest Radiograph in Diagnosing Esophageal Aluminum Coin	Clinical Pediatrics, (), 2023/9/30, (IF=1.6)	Case report
78	Uchida S	小児科・思春期科学分野	A child with acute subdural abscess with no sequelae after neuroendoscopic lavage	NEUROINFECTION, 28(1), 2023/7/21,	Case report
79	Okada K	小児科・思春期科学分野	Clinical investigation of children with acute encephalopathy associated with COVID-19 infection	NEUROINFECTION, 28(1), 2023/7/21	Case report
80	Kawashima H	小児科・思春期科学分野	A Case of Hypophosphatasia that was Overlooked for a Long Time in a Patient with a Novel Duplication Mutation in ALPL	Archives of Clinical and Medical Case Reports. 8 (2024): 155-159.	Case report
81	島原 佑介	心臓血管外科学分野	Preoperative planning for transaortic septal myectomy using cardiac computed tomography in patients with subaortic septal hypertrophy associated with aortic stenosis: case series	Eur Heart J Case Rep. 2023 Jun 28;7(8):ytad276	Case report
82	島原 佑介	心臓血管外科学分野	Additional survival benefit of bilateral in situ internal thoracic artery grafting with composite radial artery graft in total arterial off-pump coronary artery bypass grafting	J Thorac Cardiovasc Surg. 2023 Aug;166(2):519-529. e4.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月 等	論文 種別
83	福田 尚司	心臓血管外科学分野	Autologous angiogenic therapy with cultured mesenchymal stromal cells in platelet-rich plasma for critical limb ischemia	Regen Ther. 2023 Sep 21;24:472-478	Original Article
84	藤吉 俊毅	心臓血管外科学分野	Impact of preoperative identification of the artery of Adamkiewicz on spinal cord injury after descending aortic and thoracoabdominal aortic repair	Ann Cardiothorac Surg. 2023 Sep 28;12(5):468-475	Original Article
85	本多 爽	心臓血管外科学分野	Hemostatic protocol and risk-reduction surgery for treating coronary artery disease with aortic stenosis in a patient with combined coagulation factor VIII and XI deficiency: a case report	Eur Heart J Case Rep. 2023 Apr 28;7(5):ytad219	Case report
86	荻野 均	心臓血管外科学分野	JCS/JSCVS/JATS/JSVS 2020 Guideline on Diagnosis and Treatment of Aortic Aneurysm and Aortic Dissection	Circ J. 2023 Sep 25;87(10):1410-1621	Original Article
87	荻野 均	心臓血管外科学分野	Current status of surgical treatment for acute aortic dissection in Japan: Nationwide database analysis	J Thorac Cardiovasc Surg. 2023 Dec 5:S0022-5223(23)01120-0	Original Article
88	荻野 均	心臓血管外科学分野	Anaesthetic Management of a Patient With Immune-Mediated Necrotizing Muscle Disease With the Use of a Novel Ultrashort-Acting Benzodiazepine, Remimazolam: A Case Report	J Cardiothorac Surg. 2023 Oct 5;18(1):270	Case report
89	荻野 均	心臓血管外科学分野	A new insight into superacute care for type A acute aortic dissection in the Tokyo Acute Aortic Super Network	J Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Jan;167(1):41-51. e4	Original Article
90	西部 俊哉	心臓血管外科学分野	Prognostic Value of Nutritional Markers for Long-Term Mortality in Patients Undergoing Endovascular Aortic Repair	Ann Vasc Dis. 2023 Jun 25;16(2):124-130	Original Article
91	西部 俊哉	心臓血管外科学分野	Influence of Lower Limb Ischemia on Skeletal Muscle Mass Depletion in Patients with Peripheral Artery Disease	Ann Vasc Surg. 2023 Aug;94:136-142.	Original Article
92	西部 俊哉	心臓血管外科学分野	The Preoperative Lymphocyte-To-Monocyte Ratio Predicts Mortality Among Patients Undergoing Endovascular Aortic Repair for Abdominal Aortic Aneurysm	Vasc Endovascular Surg. 2024 Feb;58(2):178-184.	Original Article
93	加納 正樹	心臓血管外科学分野	Association of simple renal cysts to aneurysm sac shrinkage in true thoracic aortic aneurysms after thoracic endovascular aortic repair	J Vasc Surg. 2023 Sep;78(3):624-632	Original Article
94	松本 龍門	心臓血管外科学分野	Complete Resection of a Cavoatrial Metastatic Liposarcoma under Hypothermic Circulatory Arrest	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2023 Aug 20;29(4):206-209	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月 等	論文 種別
95	松本 龍門	心臓血管外科学分野	Inverted Thoracic Stent Graft Technique for Separation of a Stent Graft and Bare Stent Caused by Aortic Elongation	Vasc Endovascular Surg. 2023 May;57(4):402-405	Case report
96	Kato H	脳神経内科学分野	Effect of Serum Perampanel Concentration on Sporadic Amyotrophic Lateral Sclerosis Progression	J Clin Neurol・19(3)・280-287・2023	Original Article
97	Hideyama T	脳神経内科学分野	Non-traumatic Rectus Sheath Hematoma During Direct Oral Anticoagulation	Cureus・15(9)・e45876・2023	Case report
98	Naito M	脳神経内科学分野	Pathological features of glial cells and motor neurons in the anterior horn of the spinal cord in sporadic ALS using ADAR2 conditional knockout mice	J Neurol Sci 15(444), 120520, 2023	Original Article
99	Kanemaru K	脳神経内科学分野	High-risk patent foramen ovale and elderly in cryptogenic stroke	J Stroke Cerebrovasc Dis, 32(11), 107344, 2023	Original Article
100	Terashi H	脳神経内科学分野	Characteristics of sagittal spinopelvic alignment in patients with Parkinson's disease presenting with dropped head syndrome: a case series study	BMC Neurol, 23(1), 173, 2023	Original Article
101	Hosaka T	脳神経内科学分野	Glutamine/arginine site-unedited GluA2 mRNA in cerebrospinal fluid as a biomarker for amyotrophic lateral sclerosis	J Neurol Neurosurg Psychiatry, 94(10), 876-878, 2023	Original Article
102	Shishido T	泌尿器科学分野	Comparison of Postoperative Stress Urinary Incontinence between Anteroposterior Dissection and Modified Gilling Method in Holmium Laser Enucleation of the Prostate.	Urol J. 2024 Mar 24;21(2):133-139.	Original Article
103	Ono A	泌尿器科学分野	Clinical value of minimum apparent diffusion coefficient for prediction of clinically significant prostate cancer in the transition zone.	Int J Clin Oncol. 2023 May;28(5):716-723	Original Article
104	Hamada H	麻酔科学分野	Opioid-induced respiratory depression suspected of drug interaction in a prostate cancer patient	Annals of Palliative Medicine 2024. 3 13:428-432	Case report
105	Okada T	麻酔科学分野	Anesthetic management of airway stent placement by rigid bronchoscopy with superior laryngeal nerve block while preserving spontaneous breathing.	Clin Case Rep. 2023 11(11): e8232.	Case report
106	Kawachi A	麻酔科学分野	Experience of general anesthesia in a patient with menstrual-associated coronary spasm.	Clin Case Rep. 2023 11(7): e7641.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月 等	論文 種別
107	Tsuzuki Y	麻酔科学分野	A Case of Nerve Root Radiofrequency Thermocoagulation for Pain Due to Pleural Metastasis of Lung Cancer Leading to Improvement in the Patient's Quality of Life.	Palliat Med Rep. 2023 4(1): 288-291.	Case report
108	Tsuzuki Y	麻酔科学分野	Presumed first episode of nonconvulsive status epilepticus as the cause of postoperative disorder of consciousness following the completion of general anesthesia:	Clin Case Rep. 2023 11(10): e7988.	Case report
109	Igarashi S	麻酔科学分野	Evaluation of total intravenous anesthesia with remimazolam in general anesthesia for pulmonary endarterectomy of chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	JA Clin Rep. 2023 9(1):34.	Case report
110	Narumi S	麻酔科学分野	Anesthesia using remimazolam during coronary artery bypass surgery in a patient with decreased left ventricular function.	Clin Case Rep. 2023 11(9): e7970.	Case report
111	Ishida Y	麻酔科学分野	Transfusion-related acute lung injury under general anesthesia successfully treated with extracorporeal membrane oxygenation.	Clin Case Rep. 2023 11(5): e7386.	Case report
112	Ishida Y	麻酔科学分野	Severe acute cholecystitis successfully treated with endoscopic nasobiliary drainage tube insertion.	SAGE Open Med Case Rep. 2023 11:2050313X2312123 03.	Case report
113	Sekiguchi S	麻酔科学分野	Intraoperative difficulty in cardiorespiratory management during anesthesia for retroperitoneal paraganglioma resection.	SAGE Open Med Case 2023. 11 Rep :2050313X231183881	Case report
114	Sekiguchi S	麻酔科学分野	Two Cases of Splanchnic Nerve Block With Epidural Anesthesia in Patients Unable to Maintain Prone Position Due to Pancreatic Pain.	Palliat Med Rep. 2023 4(1):274-277.	Case report
115	Sekiguchi S	麻酔科学分野	A case of phantom pain and stump pain that was effectively controlled by ultrasound-guided ulnar and median peripheral nerve blocks.	Clin Case Rep. 2023 11(7): e7672.	Case report
116	Atsushi S	臨床腫瘍科、消化器内科学分野	High-intensity focused ultrasound treatment for hepatocellular carcinoma	J Med Ultrason. 2024 Jun 28.	Original Article
117	Naito S	感染制御部	Effect of COVID-19 infection on the gastrointestinal tract considering preventive methods during endoscopic procedures	DEN Open. 2024 Apr; 4(1): e290. doi: 10.1002/deo2.290	Original Article
118	Watanabe Y	感染制御部	Black pleural effusion caused by a pancreaticopleural fistula secondary to chronic alcoholic pancreatitis exacerbation accompanying COVID-19	Clinical Case ReportsVolume 11, Issue 4 25 April 2023	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月 等	論文 種別
119	松村 一	形成外科学分野	The incidence of intraoperatively acquired pressure injuries in the park-bench position was reduced by applying softsilicone multilayer foam dressings	International wound journal 2023 Oct 9;21(2):e14407.	Original Article
120	山下 賢人	形成外科学分野	Deep palm burn treated with enzymatic debridement followed by autologous skin cell suspension : a case study	Journal of Wound Care 2023 Oct 1;32(Sup10a):S30-S34	Case report
121	松村 一	形成外科学分野	Evaluation of Incision-Site Blood Flow Using Laser Speckle Contrast Imaging : Set-back Continuous Suturing with Barbed Sutures vs. Set-back Continuous or Interrupted Suturing with Monofilament Sutures	International Journal of Surgical Wound Care 4(2), 45-50	Original Article
122	島田 和樹	形成外科学分野	Surgical treatment of tracheocutaneous fistula and tracheostomy scars using a hinged flap and local myocutaneous flap	International Wound Journal 2023 Sep;20(7):2499-2504.	Original Article
123	鈴木 実紗	形成外科学分野	Effectiveness of SCAR-Q for assessment of incisional SCAR after implant-based reconstruction in breast cancer patients : Can it be a tool for incision selection?	International Wound Journal 2024 Mar; 21(3): e14822.	Original Article
124	Numata T, Irisawa R, Mori M, Uchiyama M, Harada K	皮膚科学分野	Baricitinib Therapy for Moderate to Severe Alopecia Areata: A Retrospective Review of 95 Japanese Patients. Acta Derm Venereol.	024 Jan 22;104:adv18348. doi: 10.2340/actadv.v104.18348. PMID: 38248913; PMCID: PMC10811547.	Review
125	Harada K, Ohyama M, Niiyama S, Irisawa R, Mae K, Mori M, Wakimoto H, Kinoshita-Ise M, Fukuyama M, Hayakawa R, Takagi M, Yamazaki M, Miyoshi M, Nishikawa S, Sato S, Nakazawa Y, Sugimoto T, Ogo M, Tsuboi R	皮膚科学分野	Efficacy of autologous dermal sheath cup cell transplantation in male and female pattern hair loss: A Single-Arm, Multi-Center, phase III equivalent clinical study.	J Dermatol. 2023 Dec;50(12):1539-1549. doi: 10.1111/1346-8138.16957. Epub 2023 Sep 26. PMID: 37752738.	Original Article
126	Sugai K	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Predictive patterns of lower urinary tract symptoms and bacteriuria in adults with type 2 diabetes	Diabetology International 15(2):253-261, 2024	Original Article
127	Sugai K	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Successful introduction of sensor-augmented pump therapy in a patient with diabetes and needle phobia: A case report	Journal of diabetes investigation 14(11):1318-1320, 2023	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月 等	論文 種別
128	Sasaki J	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Alternative splicing events as peripheral biomarkers for motor learning deficit caused by adverse prenatal environments	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America 12(120):e2304074120, 2023	Original Article
129	Hara N	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Clinical characteristics and human leukocyte antigens in patients with immune checkpoint inhibitor-induced type 1 diabetes and pituitary dysfunction: a single center prospective study	Endocrine 81(3):477-483, 2023	Original Article
130	Nara N, Kurosawa Y, Fuse-Hamaoka Sayuri, Kuroiwa M, Endo T, Tanaka R, Kime R, Hamaoka T	健康増進スポーツ医学分野	A single dose of oral nattokinase accelerates skin temperature recovery after cold water immersion: A double-blind, placebo-controlled crossover study	Heliyon. 2023 Jul 6;9(7):e17951	Original Article
131	Takagi S, Sakamoto S, Katsumura T	健康増進スポーツ医学分野	Relationship between muscle deoxygenation and cardiac output in subjects without attenuation of deoxygenation hemoglobin concentration near the end of ramp cycling exercise: a longitudinal study	Adv Exp Med Biol. 2023;1438:153-157	Original Article
132	Ono M	産科婦人科学分野	Effect of a web-based fertility preservation training program for medical professionals in Japan.	Int J Clin Oncol. 2023 Sep;28(9):1112-1120.	Original Article
133	Ono M	産科婦人科学分野	Reproductive Endocrinology Committee in Japan Society of Obstetrics and Gynecology. Text mining in a literature review of abnormal uterine bleeding according to the FIGO classification. e Endocrinology Committee in Japan Society of Obstetrics and Gynecology.	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Jul;49(7):1827-1837.	Review
134	Ono M	産科婦人科学分野	The Long-Term Outcome of Children Conceived Through Assisted Reproductive Technology.	Reprod Sci. 2024 Mar;31(3):583-590.	Review
135	Kawamura T	産科婦人科学分野	BMAL1 positively correlates with genes regulating steroidogenesis in human luteinized granulosa cells.	Reproduction. 2024 Jan 23;167(2):e230225	Original Article
136	Hayashi S	産科婦人科学分野	Retrospective comparative study of robot-assisted surgery, laparoscopic surgery, and laparotomy for endometrial cancer in patients with a low risk of recurrence.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Jan;50(1):103-112.	Original Article
137	Kojima J	産科婦人科学分野	Sirtuin 1 is a potential therapeutic candidate gene for fetal growth restriction via insulin-like 4.	J Matern Fetal Neonatal Med. 2023 Dec;36(2):2253486.	Original Article
138	Ito H	産科婦人科学分野	Efficacy of uterine artery embolization (UAE) for uterine fibroids according to FIGO classification: a single-center experience.	Jpn J Radiol. 2024 Feb;42(2):174-181.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月 等	論文 種別
139	Hayashi S	産科婦人科学分野	Robot-assisted Surgery with Para-aortic Lymphadenectomy for Endometrial Cancer: A Preliminary Report	Gynecol Minim Invasive Ther. 2023 Dec 7;13(2):95-100.	Original Article
140	Takada Y	循環器内科学分野	A case of cardiac sarcoidosis mimicking acute phase of takotsubo cardiomyopathy evaluated by multimodality cardiac imaging	J Cardiol Cases . 2023 Dec 23;29(3):132-135	Case report
141	Ikeda K	循環器内科学分野	Diagnostic performance of pressure-bounded coronary flow reserve	Cardiovasc Interv Ther. 2024;39:164-172	Original Article
142	Shiina K	循環器内科学分野	Nutritional Status and Sleep Quality Are Associated with Atrial Fibrillation in Patients with Obstructive Sleep Apnea: Results from Tokyo Sleep Heart Study	Nutrients. 2023;15:394	Original Article
143	Takahashi T	循環器内科学分野	Central Systolic Blood Pressure as a Risk Factor for Accelerated Progression of Arterial Stiffness	J Atheroscler Thromb. 2024;31:180-187	Original Article
144	Kazawa S	循環器内科学分野	Case report: successful termination of ventricular tachycardia by intrinsic anti-tachycardia pacing beyond conventional anti-tachycardia pacing	Eur Heart J Case Rep. 2023;ytad285	Case report
145	Kusume T	循環器内科学分野	Second Micra leadless pacemaker implantation by using intracardiac echocardiography	Pacing Clin Electrophysiol. 2024 Apr;47(4):554-557	Case report
146	Kosuge H	循環器内科学分野	Potential of non-contrast stress T1 mapping for the assessment of myocardial injury in hypertrophic cardiomyopathy.	J Cardiovasc Magn Reson (オンライン)	Original Article
147	Inagaki N	循環器内科学分野	Pediatric hypertrophic cardiomyopathy caused by a novel TNNI3 variant.	Hum Genome Var (オンライン)	Original Article
148	Yamamoto H	循環器内科学分野	Isolated right ventricular takotsubo cardiomyopathy presenting as acute right ventricular failure: A case report	Heliyon;2023 Jun 23;9(6):e17607	Case report
149	Yamamoto H	循環器内科学分野	Transient constrictive pericarditis following coxsackievirus A4 infection as a rare cause of acute mediastinitis: A case report	Heliyon;2023 Aug 30;9(9):e19555	Case report
150	Yamamoto H	循環器内科学分野	Minimally Invasive Surgical Versus Transcatheter Aortic Valve Replacement: A Retrospective Observational Single-Center Study in Japan	Innovations;2023 Nov-Dec;18(6):547-556	Original Article



(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・手順書の主な内容 ・東京医科大学医学倫理審査委員会に関する規程、東京医科大学医学倫理審査委員会運用手順 東京医科大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に係る標準業務手順書、 東京医科大学における研究に用いるヒト由来の試料およびその保管に係る手順書 (委員会の業務、委員会の組織、審査手数料、教育・研修、事務局に関する事項 研究責任者及び研究分担者の責務、研究に用いる試料の使用・保管に関する事項 等)	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・規定の主な内容 主に利益相反に関し下記規程等を整備しCOI委員会を設置。利益相反を審査する体制を構築。 ・学校法人東京医科大学研究活動等に関する利益相反マネジメントポリシー ・学校法人東京医科大学研究活動等に関する利益相反マネジメント規程 ・学校法人東京医科大学研究活動等に関する利益相反マネジメント実施細則 (上記規程に加え研究活動以外の業務における利益相反を管理する規程あり)	

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(注)前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
<p>・研修の主な内容</p> <p>2023.04.26 演題:倫理指針の一部改正について—指針の基本方針を踏まえて—</p> <p>2023.08.07 演題:既存情報を用いた研究の倫理審査申請前にチェックすべきポイント</p> <p>2023.10.26 演題:実践的研究倫理入門</p> <p>2023.12.18 演題:志向倫理 —科学者に必要な倫理—</p> <p>2024.02.20 演題:倫理指針不適合とは —他機関の事案に学ぶ—</p>	

(注)前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【資料2】各科専門研修プログラム参照

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 228人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
清水 聡一郎	総合診療科	主任教授	24年	
後藤 明彦	血液内科	主任教授	36年	
阿部 信二	呼吸器内科	主任教授	31年	
里見 和浩	循環器内科	主任教授	30年	
鈴木 亮	糖尿病・代謝・内分泌内科	主任教授	28年	
沢田 哲治	リウマチ・膠原病内科	主任教授	36年	
糸井 隆夫	消化器内科	主任教授	33年	
菅野 義彦	腎臓内科	主任教授	33年	
赫 寛雄	脳神経内科	主任教授	31年	
清水 聡一郎	高齢診療科	主任教授	24年	
井上 猛	メンタルヘルス科	主任教授	40年	
池田 徳彦	呼吸器外科・甲状腺外科	主任教授	38年	
島原 佑介	心臓血管外科	主任教授	23年	
永川 裕一	消化器外科・小児外科	主任教授	30年	
石川 孝	乳腺科	主任教授	37年	
河野 道宏	脳神経外科	主任教授	37年	
山本 謙吾	整形外科	主任教授	41年	
松村 一	形成外科	主任教授	36年	
西 洋孝	産科・婦人科	主任教授	30年	
山中 岳	小児科・思春期科	主任教授	28年	
後藤 浩	眼科	主任教授	40年	
塚原 清彰	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	主任教授	26年	
大野 芳正	泌尿器科	主任教授	34年	
内野 博之	麻酔科	主任教授	37年	
齋藤 和博	放射線科	主任教授	34年	
木内 英	臨床検査医学科	主任教授	25年	
本間 宙	救命救急センター	主任教授	31年	
上野 竜一	リハビリテーション科	臨床講師	34年	
原田 和俊	皮膚科	主任教授	30年	
渡邊 秀裕	感染症科	教授	38年	
長尾 俊孝	病理診断部	主任教授	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブス

ペシカルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況(任意)

○看護部

1. 集中ケア

1)看護専門領域研修「集中ケア」全15回

・研修の主な内容:クリティカルケアシリーズ1(生体侵襲を学ぼう1)呼吸ケアサポートナース育成講座ベーシック1、呼吸ケアサポートナース育成講座ベーシック2、クリティカルケアシリーズ2(生体侵襲を学ぼう2)、呼吸ケアサポートナース育成講座ベーシック3、呼吸ケアサポートナース育成講座ベーシック4、呼吸ケアサポートナースステップアップ研修(ベーシック)、心電図はじめの一步、呼吸ケアサポートナースステップアップ研修「病棟編」、心電図波形の理解、呼吸ケアサポートナース養成講座アドバンス1、クリティカルケアシリーズ3(ECMO管理を学ぼう)、呼吸ケアサポートナース養成講座アドバンス2、呼吸ケアナース養成講座アドバンス3、呼吸ケアナース養成講座アドバンス4

・研修の期間:2023年5月9日、5月16日、6月5日、6月21日、7月6日、8月10日、9月15日、10月2日、10月20日、11月21日、11月28日、12月12日、12月13日、2024年1月12日、2月2日

・実施回数:15回

・研修の参加人数:計172名

2. 救急看護

1)看護専門領域研修「救急看護」全18回

・研修の主な内容:2222要請側と出動側の連携、ICLSミニレクチャー(G2020)、患者さんの異常に気付くフィジカルアセスメント(気道・呼吸編)、院内急変2222とRRSのつながり、病棟スタッフの為の人工呼吸器管理、119番通報からはじまるER看護、急変時の「家族ケア」、リーダーの為の急変対応1、急変場面でのOJT「教え方」、患者さんの異常に気付くフィジカルアセスメント(循環編)、TheDMAT、災害対応基本の「キ」地震からテロ・銃撃・爆発まで、ファーストエイド「緊急・応急処置」、患者さんの異常に気付くフィジカル

アセスメント(意識編)、2222事例と対応の現状2023、スタッフの為の急変対応、リーダーの為の急変対応2、新人の為のフィジカルアセスメント総集編

・研修の期間:2023年5月10日、5月15日、5月17日、6月13日、6月20日、6月22日、7月3日、7月18日、8月14日、8月15日、8月30日、9月26日、10月19日、11月7日、12月4日、12月22日、2024年2月20日、3月18日

・実施回数:18回

・研修の参加人数:179名

2)新人看護師研修「急変時の看護」

・研修の主な内容:一次救命処置の演習(事例をグループ毎に実践、デブリーフィング実施)講義(2次救命処置の基本、救急カートについて)

・研修の期間:2023年10月24日午前・午後、10月25日午前・午後、10月26日午前・午後

・実施回数:6回

・研修の参加人数:計122名

3. がん看護

1)看護専門領域研修「がん看護」全7回

・研修の主な内容:患者さんの苦痛を知ろう!全人的苦痛のアセスメント、がん疼痛看護Ⅰーがんの痛みと評価方法ー、がん疼痛看護Ⅱー薬剤の特徴ー、がん疼痛看護Ⅲーケアと工夫ーがん患者のアピアランスケア(東京都がん診療連携協議会研修伝達研修)、がん患者のライフサイクルと意思決定への支援、放射線治療の看護

・研修の期間:2023年5月23日、6月12日、7月14日、8月8日、11月9日、2024年1月26日、2月6日

・実施回数:7回

・研修の参加人数:101名

2)看護専門領域研修「緩和ケア」全2回

・研修の主な内容:息は苦しくないですか?呼吸困難感のアセスメントとケア、倦怠感を知ろう!

・研修の期間:2023年9月7日、12月15日 ・実施回数:2回

・研修の参加人数:21名

### 3)ラダーレベルⅡ研修「がん看護」

・研修の主な内容:放射線の基礎知識、放射線療法に伴う有害事象、抗がん薬暴露の実際、化学療法についての基礎知識、化学療法薬の種類と作用機序・副作用と支持療法、化学療法前・中・後の看護とセルフケア支援など

・研修の期間:2024年1月17日

・実施回数:1回

・研修の参加人数:5名

### 4. 慢性心不全看護

#### 1)看護専門領域研修「慢性心不全看護」全4回

・研修の主な内容:心不全と併存疾患の関係についてPart1、心不全と併存疾患の関係についてPart2、心不全患者の意思決定支援、心不全指導に必要な健康理論

・研修の期間:2023年7月12日、9月28日、10月30日、2024年1月25日

・実施回数:4回

・研修の参加人数:41名

### 5. 皮膚・排泄ケア

#### 1)看護専門領域研修「皮膚・排泄ケア」全4回

・研修の主な内容:ストーマケアの基本①、ストーマケアの基本②、ハイリスク患者のスキンケア、脊椎疾患患者さんの排尿ケアを極める！

・研修の期間:2023年7月4日、9月29日、10月11日、11月24日

・実施回数:4回

・研修の参加人数:50名

### 6. 糖尿病看護

#### 1)看護専門領域研修「糖尿病看護シリーズ」全5回

・研修の主な内容:安全にインスリン療法を実施しよう、周手術期の糖尿病看護、糖尿病患者のための食

事療法、透析予防のための患者指導、糖尿病患者のフットケア

・研修の期間:2023年度6月1日、7月26日、9月14日、11月20日、2024年1月10日

・実施回数:5回

・研修の参加人数:42名

## 7. 摂食・嚥下障害看護

### 1)看護専門領域研修「摂食・嚥下障害看護シリーズ」全5回

・研修の主な内容:看護師が行う口腔ケア、看護に必要な嚥下の基礎知識、嚥下機能へ影響する要因、嚥下障害のフィジカルアセスメント、看護に活かせる栄養管理と看護師が行う嚥下訓練

・研修の期間:2023年7月19日、9月1日、10月13日、11月13日、12月1日

・実施回数:5回

・研修の参加人数:63名

## 8. 小児救急看護

### 1)看護専門領域研修「小児救急看護」全1回

・研修の主な内容:これって虐待？

・研修の期間:2023年7月13日

・実施回数:1回

・研修の参加人数:10名

## 9. 認知症看護

### 1)看護専門領域研修「認知症看護」全1回

・研修の主な内容:認知症高齢者の世界観の理解

・研修の期間:2023年10月12日

・実施回数:1回

・研修の参加人数:21名

### 2)新人看護師研修「パーソンセンタードケアで進める認知症看護Basic」

・研修の主な内容:認知症高齢者の現状・中核症状の理解と基本的なアセスメントとパーソンセンタードケ

ア

・研修の期間:2024年1月31日、2月8日、2月9日

・実施回数:3回

・研修の参加人数:計119名

#### 10. 褥瘡ケア

1)看護専門領域研修「褥瘡ケア研修シリーズ」全7回

・研修の主な内容:皮膚の構造から考える褥瘡の基礎知識、健康な皮膚を目指そう！－ナースが知って

おきたいスキンケア、皆で防ごう！MDRPUとスキン-ケア！、褥瘡の評価をしてみよう！－DESIGN-

R2020－、褥瘡を早く治そう！効果的な褥瘡治療とテクニック！、低栄養は怖い！褥瘡予防につながる栄

養管理！、やってみよう！褥瘡予防と安楽を考えたポジショニング

・研修の期間:2023年5月12日、6月9日、7月21日、8月22日、9月8日、11月29日、12月8日

・実施回数:7回

・研修の参加人数:145名

#### 11. 感染管理

1)看護専門領域研修「感染管理シリーズ」全6回

・研修の主な内容:感染症診断について理解しよう、理解して防ぐ薬剤耐性菌1、理解して防ぐ薬剤耐性

菌2、標準予防策(同一内容2回)、経路別予防策

・研修の期間:2023年5月19日、7月27日、9月4日、11月27日、1月30日、2024年3月1日

・実施回数:6回

・研修の参加人数:51名

#### 12. 新生児集中ケア

1)看護専門領域研修「新生児集中ケアシリーズ」全4回

・研修の主な内容:新生児の痛みのケアを学ぼう！、保育器にいる赤ちゃんの呼吸の観察を学ぼう！、新

生児の挿管介助を学ぼう！、低体温療法中のケアを学ぼう！

・研修の期間:2023年6月6日、7月28日、9月13日、10月6日

・実施回数:4回

・研修の参加人数:64名

### 13. 不妊症看護

#### 1)看護専門領域研修「不妊症看護」全1回

・研修の主な内容:精神疾患を持つ患者の不妊治療

・研修の期間:2023年10月17日

・実施回数:1回

・研修の参加人数:2名

### ○放射線部

#### 1・研修の主な内容 造影剤検査のリスクマネージメント

・研修の期間・実施回数 2023年9月20日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師 13名

#### 2・研修の主な内容 WEBセミナー 腹部画像診断

・研修の期間・実施回数 2023年11月22日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師 13名

#### 3・研修の主な内容 MRI用インジェクター説明会

・研修の期間・実施回数 2023年12月6日 1回 30分

・研修の参加人数 診療放射線技師 13名

#### 4・研修の主な内容 造影剤の安全性

・研修の期間・実施回数 2023年12月20日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師 13名

#### 5・研修の主な内容 WEBセミナー 骨盤部画像セミナー

・研修の期間・実施回数 2024年1月31日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師 13名

6・研修の主な内容 乳幼児撮影台PASTELの安全性および使用方法に関する研修

・研修の期間・実施回数 2023年10月2日～31日 10回

・研修の参加人数 診療放射線技師 35名

7・研修の主な内容:医療安全 ヨード系造影剤の副作用対応について

・研修の期間・実施回数:2023年6月1日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:21名 看護師:1名

8・研修の主な内容:医療安全 CT造影剤アナフィラキシーショック・シミュレーション

・研修の期間・実施回数:2023年6月15日 1回

・研修の参加人数 医師:5名 診療放射線技師:24名 看護師:9名

9・研修の主な内容:もやもや病とその撮影について

・研修の期間・実施回数:2023年12月21日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:23名 事務:2名

10・研修の主な内容:副作用による心肺停止の対応について, 造影時生食後押しの検討

・研修の期間・実施回数:2023年7月26日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:20名 看護師:1名 事務:2名

11・研修の主な内容:CT装置における最近の研究トピックスについて

・研修の期間・実施回数:2023年9月19日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:10名

12・研修の主な内容:造影剤腎症の実際について, ボウタイフィルターについて

・研修の期間・実施回数:2023年9月20日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:23名 看護師:2名

13・研修の主な内容:医療安全 医療事故情報共有

・研修の期間・実施回数:2023年9月28日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:10名 看護師:2名 事務:2名

14・研修の主な内容:ESUR Ver.10について, レケンビ薬について, アンガーマネジメント

・研修の期間・実施回数:2023年10月25日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:29名 看護師:2名 事務:1名

15・研修の主な内容:CT造影剤の投与方法(30秒注入)について, STAT画像について

・研修の期間・実施回数:2023年11月16日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:22名 看護師:2名 事務:1名

16・研修の主な内容:レケンビ薬と脳梗塞について

・研修の期間・実施回数:2024年1月31日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:20名 看護師:3名 事務:2名

17・研修の主な内容 超音波shear wave electrography(SWE)について

・研修の期間・実施回数 2023年4月6日 1回30分

・研修の参加人数 診療放射線技師6名, 臨床検査技師1名

18・研修の主な内容 血友病変関節症の現状

・研修の期間・実施回数 2023年6月21日 1回30分

・研修の参加人数 診療放射線技師5名

19・研修の主な内容:脳血管内治療 術前脳血管塞栓術

・研修の期間・実施回数:2023年4月3日 1回

・研修の参加人数:放射線技師6名 放射線診断部看護師10名 脳外科医師3名

20・研修の主な内容:脳血管内治療 術前脳血管塞栓術

・研修の期間・実施回数:2023年4月17日 1回

・研修の参加人数:放射線技師5名 放射線診断部看護師7名 脳外科医師5名

21・研修の主な内容:脳血管内治療 動脈瘤コイル塞栓術

・研修の期間・実施回数:2023年5月22日 1回

・研修の参加人数:放射線技師5名 放射線診断部看護師10名 脳外科医師4名

22・研修の主な内容:脳血管内治療 経皮的頸動脈ステント留置術

・研修の期間・実施回数:2023年6月5日 1回

・研修の参加人数:放射線技師5名 放射線診断部看護師6名 脳外科医師3名

23・研修の主な内容:脳血管内治療 術前脳血管塞栓術

・研修の期間・実施回数:2023年7月3日 1回

・研修の参加人数:放射線技師4名 放射線診断部看護師8名 脳外科医師4名

24・研修の主な内容:脳血管内治療 急性期脳梗塞治療

・研修の期間・実施回数:2023年7月24日 1回

・研修の参加人数:放射線技師6名 放射線診断部看護師6名 脳外科医師4名

25・研修の主な内容:デバイス製品説明会

・研修の期間・実施回数:2023年7月26日 1回

・研修の参加人数:放射線技師5名 放射線診断部看護師5名 脳外科医師5名

26・研修の主な内容:脳血管内治療 硬膜動静脈瘻治療

・研修の期間・実施回数:2023年8月7日 1回

・研修の参加人数:放射線技師5名 放射線診断部看護師7名 脳外科医師4名

27・研修の主な内容:脳血管内治療 蝶形骨髄膜腫

・研修の期間・実施回数:2023年8月21日 1回

・研修の参加人数:放射線技師5名 放射線診断部看護師7名 脳外科医師2名

28・研修の主な内容:脳血管内治療 動静脈奇形治療

・研修の期間・実施回数:2023年9月4日 1回

・研修の参加人数:放射線技師2名 放射線診断部看護師5名 脳外科医師3名

29・研修の主な内容:脳血管内治療 脳動脈奇形

・研修の期間・実施回数:2023年10月2日 1回

・研修の参加人数:放射線技師3名 放射線診断部看護師10名 脳外科医師3名

30・研修の主な内容:脳血管内治療 腫瘍術前塞栓術

・研修の期間・実施回数:2023年10月30日 1回

・研修の参加人数:放射線技師4名 放射線診断部看護師5名 脳外科医師3名

31・研修の主な内容:脳血管内治療 小脳橋角部髄膜種術前塞栓術

・研修の期間・実施回数:2023年11月6日 1回

・研修の参加人数:放射線技師6名 放射線診断部看護師6名 脳外科医師3名

32・研修の主な内容:脳血管内治療 大脳鎌髄膜種術前塞栓術

・研修の期間・実施回数:2023年11月20日 1回

・研修の参加人数:放射線技師4名 放射線診断部看護師9名 脳外科医師3名

33・研修の主な内容:脳血管内治療 内頸動脈狭窄症 腫瘍術前塞栓術 PTV

・研修の期間・実施回数:2023年12月4日 1回

・研修の参加人数:放射線技師6名 放射線診断部看護師8名 脳外科医師4名

34・研修の主な内容:脳血管内治療 未破裂脳動脈瘤

・研修の期間・実施回数:2024年1月15日 1回

・研修の参加人数:放射線技師4名 放射線診断部看護師7名 脳外科医師3名

35・研修の主な内容:脳血管内治療 フローダイバーター前コイルング

・研修の期間・実施回数:2024年1月29日 1回

・研修の参加人数:放射線技師5名 放射線診断部看護師5名 脳外科医師4名

36・研修の主な内容:脳血管内治療 腫瘍術前塞栓術 未破裂脳動脈瘤

・研修の期間・実施回数:2024年2月5日 1回

・研修の参加人数:放射線技師6名 放射線診断部看護師6名 脳外科医師4名

37・研修の主な内容:脳血管内治療 腫瘍術前塞栓術 内頸動脈狭窄症

・研修の期間・実施回数:2024年2月19日 1回

・研修の参加人数:放射線技師6名 放射線診断部看護師6名 脳外科医師3名

38・研修の主な内容:脳血管内治療 腫瘍術前塞栓術 未破裂脳動脈瘤

・研修の期間・実施回数:2024年3月4日 1回

・研修の参加人数:放射線技師2名 放射線診断部看護師4名 脳外科医師3名

39・研修の主な内容:脳血管内治療 腫瘍術前塞栓術 内頸動脈狭窄症

・研修の期間・実施回数:2024年3月18日 1回

・研修の参加人数:放射線技師4名 放射線診断部看護師6名 脳外科医師3名

○中央検査部

1・研修の主な内容:アラート症例検討会

・研修の期間:2023年1月17日～12月12日

・実施回数:12回

・研修の参加人数:22 名

2・研修の主な内容: Alinity 機器研修

・研修の期間:2023年2月17日～2月19日

・実施回数:1回

・研修の参加人数:1 名

3・研修の主な内容: 日立自動分析装置 機器研修

・研修の期間:2023年4月12日～5月12日

・実施回数:3回

・研修の参加人数:3 名

○臨床工学部

・研修の主な内容: 循環器内科不整脈センター WCD着用型除細動器

・研修の期間・実施回数: 2023年5月20日 1回

・研修の参加人数: 臨床工学技士26名

○薬剤部

・研修の主な内容:臨床感染症セミナー

・研修の期間・実施回数:2023年5月17日、5月31日、6月28日、8月2日、10月13日、12月11日、2024年2

月2日、計7回

・研修の参加人数:55人(5月17日)、48人(5月31日)、45人(6月28日)、7人(8月2日)、50人(10月13日)、44人(12月11日)、44人(2月2日)

② 業務の管理に関する研修の実施状況(任意)

○看護部

1. 看護管理

1)ラダーレベル研修「看護管理①」「看護管理②」「看護管理④」

・研修の主な内容:①メンバーシップ、②リーダーシップ、④自部署の問題解決

・研修の期間:①2023年9月15日午前・午後、10月7日午前、②2023年10月20日午前、10月21日午前、④2023年5月25日・2024年2月22日

・実施回数:7回

・研修の参加人数:131名

2)ラダーレベル研修「安全①～④」

・研修の主な内容:①KYT、②要因分析、③要因分析と再発防止対策、④問題解決に向けた実践

・研修の期間:①2023年7月3日午前・午後、7月31日午前・午後、②6月2日午前・午後、6月23日、③9月29日、④7月7日、2024年2月2日

・実施回数:10回

・研修の参加人数:207名

○放射線部

1・研修の主な内容:高エネルギー放射線発生装置の安全性および使用方法に関する研修(前期)

・研修の期間・実施回数:2023年5月6日～2023年5月10日 2回

・研修の参加人数:放射線技師10名 医学物理士2名 看護師6名

2・研修の主な内容:放射線照射装置の安全性および使用方法に関する研修(前期)

・研修の期間・実施回数:2023年6月3日～2023年6月12日 2回

・研修の参加人数:放射線技師10名 医学物理士2名 看護師6名

3・研修の主な内容:モニタのアラームと安全管理に関する研修(放射線治療部)

・研修の期間・実施回数:2023年9月30日 1回

・研修の参加人数:放射線技師7名 医学物理士2名 看護師4名

4・研修の主な内容:高エネルギー放射線発生装置の安全性および使用方法に関する研修(後期)

・研修の期間・実施回数:2023年11月4日～2023年11月13日 2回

・研修の参加人数:放射線技師10名 医学物理士1名 看護師5名

5・研修の主な内容:放射線照射装置の安全性および使用方法に関する研修(後期)

・研修の期間・実施回数:2023年12月16日～2023年12月26日 2回

・研修の参加人数:放射線技師10名 医学物理士1名 看護師5名

6・研修の主な内容 放射線医療機器安全使用のための定期研修(核医学SPECT-CT、PET-CT)

・研修の期間・実施回数 2023年6月16日 1回

・研修の参加人数 放射線技師6名

7・研修の主な内容 放射線医療機器安全使用のための定期研修(核医学SPECT-CT、PET-CT)

・研修の期間・実施回数 2023年12月14日 1回

・研修の参加人数 放射線技師7名

8・研修の主な内容 新規採用機器説明会(ガンマカメラ)

・研修の期間・実施回数 2024年3月13日～2024年3月14日 2回

・研修の参加人数 放射線技師6名

9・研修の主な内容:放射線医療機器安全使用のための定期講習(4階CTその1)

・研修の期間・実施回数:2023年6月21日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:17名

10・研修の主な内容:放射線医療機器安全使用のための定期講習(4階CTその2)

・研修の期間・実施回数:2023年12月20日 1回

・研修の参加人数 診療放射線技師:16名

11・研修の主な内容 医療機器の安全使用のための定期研修(磁気共鳴診断装置)

・研修の期間・実施回数 2023年6月7日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師 12名,書記1名

12・研修の主な内容 医療機器の安全使用のための定期研修(磁気共鳴診断装置)

・研修の期間・実施回数 2023年12月6日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師 12名,書記1名

13・研修の主な内容 装置安全使用の為の定期研修(超音波装置)

・研修の期間・実施回数 2023年4月20日 1回45分

・研修の参加人数 診療放射線技師7名,臨床検査技師1名

14・研修の主な内容:放射線医療機器安全使用のための定期研修(血管室CT)

・研修の期間・実施回数:2023年5月9日 1回

・研修の参加人数:放射線技師9名

15・研修の主な内容:放射線医療機器安全使用のための定期研修(血管室CT)

・研修の期間・実施回数:2023年12月6日 1回

・研修の参加人数:放射線技師9名

#### ○中央検査部

1・研修の主な内容:『検査異常値・異常所見アラートシステム』の運用方法について

・研修の期間:2023年1月31日～2月3日

・実施回数:6回

・研修の参加人数:58名(臨床検査技師)

2・研修の主な内容:新規入職者教育

ISO15189、文書台帳、記録台帳の教育、危機管理について

ミスをしたときの対応、環境

・研修の期間:2023年5月11日～12月18日

・実施回数:5回

・研修の参加人数:5名(臨床検査技師)

3・研修の主な内容:フレキシブルな認定申請方法及び審査指針について

・研修の期間:2023年4月13日～6月19日

・実施回数:4回

・研修の参加人数:10名(臨床検査技師)

4・研修の主な内容:内部監査員養成

・研修の期間:2023年5月8日～6月27日

・実施回数:11回

・研修の参加人数:2名(臨床検査技師)

5・研修の主な内容:接遇研修

・研修の期間:2023年5月30日～6月29日

・実施回数:3回

・研修の参加人数:132名(臨床検査技師)

6・研修の主な内容:フレキシブルな認定範囲の管理要員教育

・研修の期間:2023年7月13日～12月7日

・実施回数:19回

・研修の参加人数:27名(臨床検査技師)

7・研修の主な内容:遭遇する可能性のある「凝固検査」の 異常値と対策・対応法について

・研修の期間:2023年11月14日

・実施回数:1回

・研修の参加人数:39名

8・研修の主な内容:毒物劇物取扱についての訓練

・研修の期間:2023年11月24日～2024年1月10日

・実施回数:11回

・研修の参加人数:116名(臨床検査技師)

9・研修の主な内容:データ不良や異常な測定値の原因を探る

・研修の期間:2023年12月18日

・実施回数:1回

・研修の参加人数:32名

10・研修の主な内容:接遇の研修

・研修の期間:2024年1月19日

・実施回数:1回

・研修の参加人数:42名(臨床検査技師)

#### ○臨床工学部

・研修の主な内容: 血管形成術用機器 ショックウェーブ

・研修の期間・実施回数: 2023年10月27日、11月16日 2回

・研修の参加人数: 臨床工学技士26名

#### ○薬剤部

・研修の主な内容:新薬説明会

・研修の期間・実施回数:2023年5月24日、5月26日、6月2日、6月14日、6月16日、7月10日、7月14日、7月18日、7月19日、7月28日、8月10日、8月28日、8月29日、8月31日、9月12日、9月21日、9月25日、9月26日、11月16日、11月17日、11月20日、11月21日、11月22日、2024年1月18日、1月22日、1月23日、1月25日、3月8日、3月11日、3月21日、計30回

・研修の参加人数:10人(5月24日)、10人(5月26日)、12人(6月2日)、10人(6月14日)、11人(6月16日)、10人(7月10日)、10人(7月14日)、13人(7月18日)、12人(7月19日)、9人(7月28日)、11人(8月10日)、9人(8月

28日)、10人(8月29日)、10人(8月31日)、8人(9月12日)、11人(9月21日)、10人(9月25日)、12人(9月26日)、10人(11月16日)、11人(11月17日)、11人(11月20日)、10人(11月21日)、10人(11月22日)、12人(2024年1月18日)、10人(1月22日)、10人(1月23日)、8人(1月25日)、10人(3月8日)、11人(3月11日)、11人(3月21日)

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

○薬剤部

1・研修の主な内容:将来を見据えた薬薬連携研修会

・研修の期間・実施回数:2023年7月28日、計1回

・研修の参加人数:24人

2・研修の主な内容:薬科大学教員実務研修

・研修の期間・実施回数:毎月4~5日/人

・研修の参加人数:5人

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	2. 現状
管理責任者氏名	山本 謙吾(病院長)
管理担当者氏名	大野 芳正(副院長、医療安全、資材管理、薬事担当) 阿部 信二(副院長、危機管理、BCP、診療(内科)、教育・研究担当) 永川 裕一(副院長、診療部長、診療(外科)、手術室運営担当) 鈴木 亮(副院長、医療・企業連携、医療サービス・広報・社会連携担当) 高城 由紀(副院長、看護部長、多職種連携担当) 松村 一(病院長特別補佐、医療情報管理・電子カルテシステム更新担当) 里見 和浩(病院長特別補佐、働き方改革担当) 遠藤 健司(病院長特別補佐、手術部支援室長、予約診療センター担当) 菅野 義彦(医療の質・安全管理部長、医療の質管理室長) 浦松 雅史(医療安全管理室長) 渡邊 秀裕(感染制御部長) 竹内 裕紀(医薬品安全管理責任者、薬剤部長) 本間 宙(医療機器安全管理責任者) 中澤 弘一(臨床工学部長、集中治療部長) 醍醐 象器(事務部長、医事課長、経営企画室長) 須田 慎二郎(総務課長) 宮澤 勝美(人事課長) 清水 敬一郎(内部監査室長)

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	総務課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療情報管理室
		看護記録	診療情報管理室
		検査所見記録	診療情報管理室 HIS(NEC:MegaOak HR)のプログレスノート(電子カルテ記録)
		エックス線写真	診療情報管理室
		紹介状	診療情報管理室
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理室
病院の管理及び運	規則	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	各診療科、医事課

営に関する諸記録				いる。	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科		
		高度の医療の研修の実績	臨床研究支援センター		
		閲覧実績	総務課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部		
	項 規則第一条の十一第一項に掲げる事		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	担当する各部門において、コンピューター又はファイル等により保管管理している。
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
			医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	担当する各部門において、コンピューター又はファイル等により保管管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部、臨床研究支援センター	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床研究支援センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	臨床研究支援センター
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者サポートセンター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室 生涯教育センター
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室 薬剤部 臨床工学部 総務課
管理者が有する権限に関する状況	法人人事課 法人会計課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人総務部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 山本 謙吾
閲覧担当者氏名	事務部長 醍醐 象器
閲覧の求めに応じる場所	・会議室
閲覧の手続の概要 病院宛若しくは病院長宛の公文書による依頼に基づき閲覧の申込みを受ける。 閲覧は関係する教職員の立ち会いを必要とする。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 1件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11 第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<p>・ 指針の主な内容:</p> <p>1. 目的</p> <p>この指針は、学校法人東京医科大学における医療安全に関する基本指針の趣旨に基づき、東京医科大学病院における医療の安全を確保するために必要な体制並びに医療事故及びインシデント発生時の対応方法を示し、もって良質で安全な医療提供に寄与することを目的とする。</p> <p>2. 基本的な考え方</p> <p>1) 質の高い医療を持続して提供するためには、安全管理体制のより一層の充実を目指す姿勢が重要である。この姿勢の確保は、全ての医療従事者の責務であり、全職員が医療の質の向上と安全の推進に取り組まなければならない。</p> <p>2) 病院長は、個人の努力に依拠する安全管理には限界があることを認識し、組織を挙げた安全管理体制の構築に努める必要がある。</p> <p>(1) 医療安全管理責任者</p> <p>(2) 医療安全管理委員会</p> <p>(3) 医療安全管理室</p> <p>(4) 医療安全管理者</p> <p>(5) 医薬品安全管理責任者</p> <p>(6) 医療機器安全管理責任者</p> <p>(7) 医療放射線安全管理責任者</p> <p>(8) 感染制御部</p> <p>(9) 患者サポートセンター</p> <p>(10) 臨床研究支援センター</p> <p>3) 病院長は、前項各号に掲げる者又は部門の運営に係る事項を定める。</p> <p>4) 病院長は、医療安全管理責任者として、危機管理・教育担当の副院長をもって充てる。</p> <p>5) 医療安全管理責任者は、医療安全管理委員会、医療安全管理室、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者並びに医療放射線安全管理責任者又は部門を統括するほか、以下に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 医療安全管理体制を構築すること</p> <p>(2) 医療安全に関する職員への教育及び研修を実施すること</p> <p>(3) 医療事故等を防止するための情報収集、分析、対策立案及びフィードバック評価を行うこと</p>	

(4)医療事故等へ対応すること

(5)医療安全文化の醸成に資する活動をする

### 3. 組織及び体制

1) 病院長は、「学校法人東京医科大学における医療安全に関する基本指針」第2条第2項各号に従い、次に掲げる者を任命し、又は部門を設置する。

### 4. 職員研修

1) 病院長は、医療安全への意識、多職種との連携業務の認識、業務の技能向上を目的として、医療に係る安全管理のための基本的な事項及び具体的な方策について、職員に対する研修を実施する。

2) 病院長は、医療法施行規則第9条の23第14号に規定する職員研修を実施する。

3) 病院長は、定期的に医療安全管理に係る研修を受講する。

4) 病院長は、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者並びに医療放射線安全管理責任者に、定期的に医療安全管理に係る研修を受講させる。

### 5. 報告等に基づく安全管理体制

全職員は、患者に望ましくない事象が発生した場合、又はその可能性を発見した場合には、別に定める規程に基づく報告をしなければならない。

### 6. 医療事故等発生時の対応

1) 全職員は、患者に医療事故等が発生した場合、患者の回復並びに患者及び家族等に対する情報提供に努める。

2) 病院長は、患者に医療事故等が発生した場合の対応に係る事項を定める。

### 7. 医療従事者と患者との情報共有等

1) 全職員は、患者等の個人情報保護を義務を負う。

2) 病院長は、個人情報保護に係る事項を定める。

3) 全職員は、患者が疾病や診療内容等を十分理解し医療上の意思決定ができるように、情報提供と説明を行う。

4) 全職員は、患者との情報共有に努める。

5) 病院長は、患者その他の病院利用者及び全職員がこの指針を閲覧可能とすること。

### 8. 患者からの相談への対応

病院長は、患者からの相談に対応する部門を設置し、及び相談に関する手続きを定める。

### 9. 高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する安全管理体制

1) 病院長は、高難度新規医療技術を用いた医療及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門を設置する。

2) 病院長は、高難度新規医療技術を用いた医療及び未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合には、職員が遵守すべき事項及び前項の部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成する。

3) 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合、関係学会の基本的考え方やガイドライン等を参考に実施する。

#### 10. 特定機能病院間の監査

1) 病院長は、他の特定機能病院の管理者と連携し、年に1回以上他の特定機能病院に従業者を立ち入らせ、必要に応じ、医療に係る安全管理の改善のための技術的助言を行わせなければならない。

2) 病院長は、年に1回以上他の特定機能病院の管理者が行う前項に規定する従業者の立入りを受け入れ、技術的助言を受けなければならない

#### ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況

・ 設置の有無( 有 )

・ 開催状況:年12回

・ 活動の主な内容:

1. 医療事故等を防止するための体制を確立すること

2. 医療事故等についての対応、情報収集、調査及び分析を指揮監督すること

3. 職員に対して医療事故等に関する情報を提供すること

4. 職員に対して医療事故等防止及び医療安全管理に関する教育をすること

5. 医療事故等が医療事故調査制度における医療事故調査・支援センターへの報告を要するものか否かを判断すること

6. 院内病因死因(Morbidity and Mortality)検討会(以下「M&M検討会」という。)に対して、前号の判断のために必要な情報を取りまとめて、報告書の作成を指示すること

7. 医療安全管理委員会の所掌する下部の委員会等から報告を受けること

8. 医療事故等が発生した際、事象の事実及び発生前の状況について、職員に医療安全管理室へ報告させること

9. 前号の規定による報告の実施状況を確認すること

10. 前号の規定による確認結果を病院長へ報告すること

11. 第8号に規定する実施の状況が不十分な場合、適切な報告のための職員への研修及び指導を行うこと

12. 重大な問題その他医療安全管理委員会において取り扱うべき問題が発生した場合、速やかな原因究明のための調査及び分析を行うこと

13. 前号の分析結果を活用し、医療安全の確保のための方策の立案、実施、職員への周知を行うこと

14. 前号の医療安全の確保のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた方策の見直しを行うこと

15. その他医療安全一般に関すること

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年2回

・ 研修の内容(すべて):

1) 医療法に定められた医療安全研修

・第1回「この研修会に関すること～なぜ、誰が、なにを～」、「医の倫理『インシデントと処罰』」、「やはり地道に感染対策です!」、「小児における薬物療法の注意点」、「その医療ガス、何気なく使っていませんか?」

・第2回「心理的安全性と効果的なコミュニケーション」、「RRSを患者さんの急変防止に役立てよう」、「医薬品の適応外使用-院内の取り組み-」、「医療機器、信じきっていませんか」、「診療放射線の安全利用」、「感染情報をリニューアルしてみました」、「USBの管理について」

2) 中途採用・異動・帰任・育児休業復職者研修

院内の医療安全・感染対策・個人情報保護・医薬品の取り扱い・医療機器の取り扱い・放射線の安全利用・接遇・マナーについてのルールなどを周知、共有する目的で中途採用者・帰任者に対し研修を実施している。研修はe-learningを活用し、受講状況・理解度について、生涯教育センターと協力し、情報の共有・管理を行っている。

3) 初期臨床研修医研修

初期臨床研修医に対し、医療安全管理室での研修を1日設け、医療安全の基礎、院内の医療安全に関する取組、薬剤の知識の講義及び院内巡視を実施している。

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有 )

・ その他の改善のための方策の主な内容:

1) イン트라ネットでのインシデントの報告

2) 日本医療機能評価機構への報告

3) 医療事故防止および医療の質確保に関する活動

4) 医療安全推進委員会(多職種混成チーム)による定期院内巡視と評価、および医療安全管理室の院内巡視(毎月1回)

5) 情報の一元化(職員が知っておくべき共有ファイルの指定と管理)

6) 職場安全会議を活用した多職種による合同カンファレンスの推進

7) インフォームドコンセント時の複数立ち合いの推奨(看護師の立ち合いの推奨)

8) 医療安全管理室ニュースレター、医療安全情報の配信による職員への周知

9) 医療安全マニュアル、医療安全マニュアルポケット版の改定作業

10) 3施設間医療安全相互ラウンドの実施

東京医科大学には3施設の病院がある。同系列病院として安全管理の質向上と相互理解、情報共有などを図る目的で、3病院医療安全相互ラウンドを実施している。

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策の基本的な考え方を示して、感染症発生防止に留意し、発生時には速やかな制圧を全職員で図る。</li> <li>2. 病院長直属の中心的な組織、感染制御部を設ける。</li> <li>3. 対策の病院全体への周知・実施を行っていくため、感染症対策委員会と感染対策小委員会の設置感染リンクドクター・リンクナースを配備する。</li> <li>4. 病院職員に対しては基本的な考え方や具体的な方策に関する研修会を開催する。</li> <li>5. 感染症に関する注意情報を随時発するとともに、院内における耐性菌の検出状況および抗菌薬適正使用状況を感染症対策委員会・診療合同会議・医局長会議・看護師長会議・職場安全会議等にて報告する。</li> <li>6. 感染症発生時には、職員はすみやかに感染制御部へ報告し、感染制御部は原因究明・改善策を検討する。検討した内容は感染症対策委員会で協議の上、各種会議等を通じ全職員に周知徹底する。</li> <li>7. 指針は患者その家族が閲覧できる。患者・家族にも感染防止の意義や手技を説明し協力を求める。</li> <li>8. 職員はマニュアルを遵守するとともに、自らの健康管理に留意する。</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物検査室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析。</li> <li>2. 感染制御部ラウンド巡視状況の報告(対象:広域抗菌薬長期間投与例、病棟・外来環境ラウンド、耐性菌分離例、アウトブレイク事例等)</li> <li>3. 抗菌薬適正使用推進に関する対応(指定抗菌薬の届出状況、広域抗菌薬の使用状況、抗菌薬適正使用支援介入について、入院、外来、診療科での抗菌薬使用状況等)</li> <li>4. 感染制御部立案の具体的対策案について、各種職種代表者による審議。</li> <li>5. 対策案・注意喚起情報の職員への周知(診療合同会議・科長会議・看護師長会議・総医局会・中央診療部門の各部署での会議や院長通達、サイボウズや書面等による委員会からの情報発信など。</li> <li>6. マニュアル・ガイドラインなど院内の感染対策に関わる規約等の最終決議。</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年52回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p>	

1. 新採用者オリエンテーション:院内感染対策組織・マニュアル、標準予防策、感染経路別予防策、血液体液曝露事故(針刺し事故等)対応、手指衛生・個人防護具着脱演習、新型コロナウイルス感染症対策(実施回数:1回)
2. 医療安全研修会:1回目「やはり地道に感染対策です！」  
2回目「感染情報をリニューアルしてみました」
3. 定例研修会:1回目「①職種カンファレンスで不要な尿道カテーテルを減らそう!!!」  
1回目「②感染症対策マニュアル5版 小改訂について」  
2回目「看護師が行う抗菌薬適正使用」
4. 感染リンクナース研修:感染リンクナースの役割、手指衛生5つのタイミングの理解、手指衛生直接観察法の理解、年間活動方針、定例データのフィードバック、手指衛生推進計画の共有、手指衛生の5つのタイミングを示したシナリオ作成、医療関連感染予防の実技演習(閉鎖式コネクタの消毒方法・尿道カテーテル管理・針捨てボックスの使用方法)、事例検討(ノロウイルス)、年間評価(実施回数:4回)
5. 臨床研修医のためのレクチャー:総論、微生物、耐性菌、感染臓器、治療総論、抗菌薬各論①、抗菌薬各論②(実施回数:7回)  
※ランチョンセミナー:感染症シリーズ①～⑥(実施回数:6回)
  - ①君たちはどう学ぶか? 研修医がいま感染症を学ぶ意味
  - ②患者? 自分? 誰のため? みんなを守る感染対策 最強レッスン
  - ③感染症診療の三要素① 感染臓器の同定と培養検査
  - ④感染症診療の三要素② 培養評価のための微生物総論
  - ⑤感染症診療の三要素③ 適切な抗菌薬選択と考え方
  - ⑥実践! 入院患者の急な発熱 その発熱、正しく対応できますか?
- ※ランチョンセミナー:症例から考える抗菌薬の使い方①～②(実施回数:2回)
  - ①実践! 当直中の発熱患者 外来での発熱の考え方
  - ②実践! 最適な対応を考えよう 発熱患者 検査と治療の考え方
6. 委託業者への勉強会:
  - 1回目:1. 手指衛生 2. 環境整備 3. 血液体液曝露予防について
  - 2回目:1. 標準予防策の概念 2. 感染経路別予防策の概念 3. 労働安全衛生と個人防護具 4. 個人防護具不足時対応 5. 血液・体液曝露事例の報告 6. 個人防護具の使い方 7. 手指衛生(蛍光剤を用いた演習)
7. 中途採用・帰任者医療安全研修会:感染対策について(都度実施)
8. その他:ICTC(感染対策トレーニングコース)PPE編と手指衛生編の2系統(実施回数:計22回)

日勤看護助手研修 1.環境清拭の正しい方法 2.洗浄すべき物品と消毒すべき物品(実施回数:2回)  
夜間看護助手研究 1.環境整備(実施回数:2回)

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:
  1. 耐性菌発生を減らすための広域抗菌薬一定期間使用者リストアップ・血液培養陽性者/耐性菌検出者リストアップに対する現場のラウンドによる指導。
  2. 院内感染対策ラウンドによる基本手技、医療行為、デバイス管理、病院環境のチェックと指導。
  3. マニュアルの見直し・検討・改訂。
  4. 感染リンクナースの年間活動計画に基づくグループ活動の実施。
  5. 感染リンクナースによる自己チェック表を用いた自己評価と改善活動報告。
  6. 各部署における耐性菌アウトブレイク値の設定に基づく早期介入。
  7. 人事課との協同によるワクチン接種プログラムの計画立案・実施・評価。
  8. 感染防止対策地域連携加算に関する連携医療機関とのカンファレンス(実施回数:4回)。

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の主な内容:</p> <p>1 新人教育研修:医薬品管理について(麻薬、向精神薬、特定生物由来製品等)(年1回)</p> <p>2 院内医療安全研修会(年2回)</p> <p>・小児における薬物療法の注意点</p> <p>・医薬品の適応外使用-院内の取り組み-</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容:</p> <p>手順書に基づくチェックシートを作成し、各部署での業務が適切に行われているかを薬剤師が確認している。病院全体および薬剤部については年2回、病棟および外来部門については月1回の確認を実施している。各部署における医薬品の在庫、使用期限の確認もチェック時に同時に実施し、適正な在庫管理に努めている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば):</p> <p>・ 海外製各種感染症ワクチン製剤</p> <p>・ 海外製HIV治療薬および日和見感染症治療薬</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容:</p> <p>医薬品の安全使用およびその他医薬品に関する情報は、厚生労働省、PMDA、製薬企業、学会、医療情報提供団体のWebサイト、新聞、雑誌等から入手し、必要に応じて加工し、院内に周知している。院内には月1回発行の薬剤部作成の情報誌を配布、および合同診療会議で内容の周知を行い、必要に応じて別途、院内に連絡文書を配布・配信および院内ポータルサイトで周知している。</p> <p>HBV再活性化のおそれがある医薬品を使用中の患者のスクリーニングを実施し、診療科に検査実施の依頼をしている。</p> <p>院内で発生した医薬品の副作用についての情報は、電子カルテ上での報告システムより収集する。収集された副作用の情報は、医薬情報室にて管理し、薬事ニュースに掲載し院内に公開するとともにPMDAに報告している。</p>	

医薬品の適応外使用や未承認薬の使用については原則、診療科による医薬品適応外使用・禁忌評価部会および未承認新規医薬品等の使用に係る評価委員会への申請のより把握する体制を構築している。その他に医薬品安全管理に関する情報は、調剤業務、病棟薬剤師業務、医薬品安全使用のための業務手順書のチェックシート等により収集する。収集された情報は医薬情報室にて管理し、医薬品安全管理責任者等に報告している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年95回
<p>・ 研修の主な内容:</p> <p>【定期研修】知識と技術の向上のため、繰り返し学習する必要がある医療機器に対し定期的実施。人工呼吸器をはじめ特定管理医療機器の 7 種類(粒子線照射装置は保有していない)</p> <p>【新規導入機器】説明会や研修対象となる医療従事者に対して、安全性、有効性、使用方法、保守点検に関する事項、その他不具合が発生した場合の対応、使用に際し法令上、遵守すべき事項などについて実施。</p> <p>【院内医療安全研修会】(年2回)</p> <p>第1回 2023年6月「その医療ガス、何気なく使っていませんか?」</p> <p>第2回 2023年11月「医療機器、信じきっていませんか」</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容:</p> <p>人工呼吸器、人工心肺、補助循環装置、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、高エネルギー放射線装置、輸液ポンプ、シリンジポンプなどに対して、年度計画に基づきメーカーによる年1回から2回の定期点検のほか、使用前・使用中・使用后点検等を臨床工学部内および医師・看護師・技師(技士)により実施している。また臨床工学部では中央管理業務の業務委託の導入を継続し、点検管理内容を見直しながら医療機器管理の質の向上を図っている。また2023年は、これまで長気管、現場へ設置していた酸素流量計や血圧計(エレマーノ)を計画的に回収し保守点検を実施した。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば):なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容:</p> <p>メーカーや日本医療機能評価機構、PMDA 等から発出される情報の収集は関連部署、もとより医療安全管理室、臨床工学部、事務部資材課にて行われており、部門対象の機器については当該部署の関係者へメーカーより報告。すみやかに情報を整理し医療機器安全管理者、医療安全管理室、場合によっては病院長へ報告、対応する。職場安全管理者会議においても、医療機器安全管理者(実務者)より回収情報や安全性情報、</p>	

注意喚起また院内でどのように対処したのかを全職員へ周知する。また重要度に応じて、医療安全管理室より緊急情報として発信される。医療機器の安全使用を目的とした改善の実施については、インシデント報告事例を分析し、院内研修などで周知している。また不具合報告書をもとに、関連部署への使用方法の再周知や医療機器の更新、新規採用に活かせるようデータ管理している。

**【中央管理している医療機器の運用の見直し】**

電源コード等が劣化しており、断線等トラブルを未然に防ぐため予めまとめて購入し、一斉に交換を実施した。また、今後の機器購入のため実機を用いて勉強会等計画し実施した。機器の更新は、同メーカーの製品を更新することが多かったが、現場の意見を繰り返しヒアリングし、申請の参考にした。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・責任者の資格(医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者(医師)が、医薬品安全管理責任者、医療安全機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者、医療安全管理部門の出席する医療安全管理委員会に出席し、全体の業務を把握している。</p> <p>医療安全管理部門に医薬品及び医療機器安全管理実務者を介し連携するよう指示を出し、医療安全管理室において毎朝のミーティングで情報共有が行われていることに加え、検査部門及び放射線部門との連携も図るため、週1回の拡大ミーティングへの参加を指示している。</p> <p>また、有事の際は直接連絡がくる体制をとっている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(10名)
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品の安全使用およびその他医薬品に関する情報は、厚生労働省、PMDA、製薬企業、学会、医療情報提供団体の Web サイト、新聞、雑誌等から入手し、必要に応じて加工し、院内に周知している。院内には月1回発行の薬剤部作成の情報誌を配布、および診療合同会議で内容の周知を行い、必要に応じて別途、院内に連絡文書を配布・配信および院内ポータルサイトで周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>国内未承認の医薬品を使用する場合には、事前に院内の委員会で審議対応が必要である。そのため、臨床研究支援センターや診療科から薬剤部に相談、連絡等がある。</p> <p>・担当者の指名の有無(有)</p> <p>・担当者の所属・職種: (所属:薬剤部, 職種 薬剤師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容: [遵守状況の確認]</p>	

院内診療記録監査(1回/年、5件/科、全科通年開催)、説明同意書量的点検(スキャン時/全件)、入院診療記録(2ヵ月分/年)、IC テンプレート点検等

[指導内容]院内診療記録監査(説明の内容、患者の反応、同席者等)では報告書に基づき各科医局内で指摘事項を周知、診療情報管理委員会、診療合同会議にてIC 責任者・診療情報管理委員長が全体周知および指導を実施している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容:

質的点検:院内診療記録監査(1科5件/年入院・外来、全診療科)共通監査シートを用いた医師ピアレビュー形式で通年開催

量的点検:入院診療記録の医師退院時要約、手術記録、入院診療計画書、退院療養計画書、死亡診断書、剖検報告書、指導医カウンターサイン実施状況、IC テンプレート使用状況等

[指導内容]入院診療記録(記載不備等)では作成者・診療情報管理委員・病棟医長・科長へ督促、院内診療記録監査(診療録等の十分な記載)は報告書に基づき各科医局内で指摘事項を周知、診療情報管理委員会、診療合同会議を通じ院内全体に周知を行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有

・所属職員:専従(10)名、専任( )名、兼任(1)名

うち医師:専従(3)名、専任( )名、兼任(1)名

うち薬剤師:専従(1)名、専任( )名、兼任( )名

うち看護師:専従(2)名、専任( )名、兼任( )名

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容:

1) 医療安全管理委員会、医療安全推進委員会、院内病院死因(M&M)検討会、職場安全管理者会議、C Vライン管理部会、VTE管理部会、院内救急対応委員会、看護師による静脈注射管理部会、侵襲的処置・検査施行時の鎮静管理部会等、各種委員会・部会の運営。

2) 事故等の発生時の対応

・診療録の確認、情報の収集

・患者への説明等の適切な対応、調整

・原因の分析、改善策の立案、職員への周知、改善策の実施状況の確認等

3) 死亡患者の確認

- ・死亡の事実確認、及び死亡に至るまでの状況の確認(定期的な病院長への報告)

4) 他の特定機能病院との連携

- ・都内私大病院安全連絡会議
- ・私立医科大学病院 医療安全相互ラウンド

5) 職員研修の実施

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数(4件)、及び許可件数(4件)
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無(有)
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(有)
- ・活動の主な内容:

高難度新規医療技術による医療提供を行う場合は、診療科長より臨床研究支援センター先端医療管理部門(以下、部門)へ申請する。部門でその申請内容を確認の後に、高難度新規医療技術評価委員会(以下、委員会)へ評価を依頼する。委員会の意見に基づき、部門にて意見交換を経て部門の長(高難度医療技術を用いた医療の提供に関する経験及び知識を有する医師)が意見をまとめ適否を決定する。その結果を診療科長へ通知し、病院長へも報告する。医療提供を行った場合は、実施報告、経過報告、有害事象が発生した場合の有害事象報告を診療科長が部門へ提出する。部門では報告内容を診療録で確認し、意見をまとめた上で診療科へ意見を伝えると共に病院長へ報告する。病院長から部門へ指示があった場合は、速やかに診療科へ伝える。部門内の意見交換の結果、委員会の再評価が必要と考えられた場合は、委員会へ評価依頼をして上記のプロセスを繰り返す。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(有)
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無(有)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数(1件)、及び許可件数(1件)
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無(有)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(有)
- ・活動の主な内容:  
未承認新規医薬品等を用いた医療提供を行う場合は、診療科長より臨床研究支援センター先端医療管理部門(以下、部門)へ申請する。部門でその申請内容を確認の後に、未承認新規医薬品等に係る評価委員会または未承認医療機器に係る評価委員会(以下、委員会)へ評価を依頼する。委員会の意見に基づき、部門にて意見交換を経て適否を決定する。その結果を診療科長へ通知し、病院長へも報告する。医療提供を行った場合は、実施報告、経過報告、有害事象が発生した場合の有害事象報告を診療科長が部門へ提出する。部門では医薬品安全管理責任者または医療機器安全管理責任者ととも報告内容を診療録で確認し、意見をまとめた上で診療科へ意見を伝えると共に病院長へ報告する。病院長から部門へ指示があった場合は、速やかに診療科へ伝える。部門内の意見交換の結果、委員会の再評価が必要と考えられた場合は、委員会へ評価依頼をして上記のプロセスを繰り返す。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(有)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無(有)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況:年 778 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況:年 211 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - 1) 医療事故及び有害事象を防止するための体制の確立
  - 2) 医療事故等についての対応、情報収集、調査及び分析を指揮監督する
  - 3) 職員に対して医療事故に関する情報を提供する
  - 4) 職員に対して医療事故等防止及び医療安全管理に関する教育をする
  - 5) 医療事故が医療事故調査制度における医療事故調査・支援センターへ報告を要するものか否かの判断

- 6) 院内病院死因(M&M)検討会に対して5)の判断のために必要な情報を取りまとめて、報告書の作成を指示する
- 7) 委員会が所掌する下部の委員会から報告を受ける
- 8) 医療事故が発生した際、事象の事実及び発生前の状況について、職員に医療安全管理室へ報告させる
- 9) 8)の規定による実施状況を確認する
- 10) 8)の規定による確認結果を管理者へ報告する
- 11) 8)に規定する実施状況が不十分な場合、適切な報告のための職員への研修及び指導を行う
- 12) 重大な問題その他、医療安全管理委員会において取り扱うべき問題が発生した場合、速やかな原因究明のための調査及び分析を行う
- 13) 分析結果を活用し、医療安全確保のための方策の立案、実施、職員への周知を行う
- 14) 改善のための方策の実施状況の調査と必要に応じた方策の見直しを行う
- 15) その他医療安全全般

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り(有(病院名:日本医科大学付属病院))
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ(有(病院名:日本医科大学付属病院))
- ・技術的助言の実施状況

【技術的助言の内容】

1. 医師からのインシデント・アクシデントの報告件数の増加。
2. 医療安全管理委員会委員によるラウンドの推奨。
3. 医療安全管理者のラウンド回数増加。
4. 病棟定数配置薬の削減とその使用前鑑査の充実。

【対応】

1. 研修医に対して年間10例のインシデント報告を義務付けることで、報告することへの抵抗感を低下させ、医師からの報告件数増加に向けた取り組みは行っている。
2. 医療安全管理委員会構成員は、概ね各部門の長が担当しており、その各部門で部門の長を中心とした院内ラウンドが行われているため、それを以て構成員でのラウンドと捉えていたが、委員会構成員のみでの院内ラウンドの実施を検討する。
3. 医療安全管理者の定例ラウンドとしては、月に一度となるが、月に15回前後のインシデント報告に基づい

た現場視察があるため、定例ラウンドを増やしていけるかも含めて検討する。

4.病棟の定数配置薬は大幅に削減し、使用前鑑査の充実を計画する。

#### 【改善状況】

1.研修医からの報告件数については、一定の効果が出てきており、昨年度は一昨年度に比べ、約2倍の報告件数となった。現在は、研修医以外からの報告件数増加に向け、総医局会会長とともに各診療科への説明会を開始した。

2.委員会構成員でのラウンドを検討したが、各部門で行われる院内ラウンドが相当数あるため、これに加えて実施することは、効果の薄いラウンドになる懸念があったため、引き続きの検討課題とした。

3.医療安全管理委員会構成員による院内ラウンドの実施同様、2日に1回程度の現場視察が行われている現状での実施回数の増加は、効果の薄いものになるとの懸念があったため、引き続きの検討課題とした。

4.使用前鑑査の充実を計画していたが、2026年の電子カルテシステムの入れ替えに伴い、システム・運用方法・人員整備を含めた総合的な視点から再度検討することとなった。

#### ⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

・1Fに患者サポートセンターを設置し、専門の事務担当者が相談に応じている。必要に応じて多職種と連携し対応を行っている。

・相談内容は、平日毎日開催している早朝カンファレンス、週1回開催している患者サポート体制多職種カンファレンス、月1回開催している各部署代表者が参加するサービス向上委員会で共有、検討を行っている。

・医療安全上の問題については、患者サポートセンター副センター長を兼務している医療安全管理室長に適宜情報共有を行い、対応の協議している。

#### ⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

○医療安全管理室

1)医療法に定められた医療安全研修

6月と11月に実施。対象は全職員であり、常勤・非常勤問わず受講対象とし、常勤の受講は必須としている。研修はe-learningによる受講とした。

○生涯教育センター

[中途採用・帰任者研修]

中途採用者(派遣含む)と、帰任者(勤務最終月の翌月から6ヵ月を超えて離職している施設間異動、復職、産休・育休明けの職員)を対象に、東京医科大学病院 e-learning システムを用いて「医療安全」「感染対策」「薬品の取り扱い」「医療機器の取り扱い」「個人情報保護」「患者接遇」「医の倫理(臨床倫理)」「コンプライアンス」に関する研修を毎月就業前に実施している。研修未受講者は院内の電子カルテシステムの利用ができない。研修内容については、毎年1回作成部署・担当者に確認し更新している。

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者:2023年度特定機能病院管理者研修(継続・6時間)公益財団法人 日本医療機能評価機構(2023年11月20日)

医療安全管理責任者:2024年1月9日:2023年度 特定機能病院管理者研修(初回 第2回・13時間)

医薬品安全管理責任者:2023年度特定機能病院管理者研修(継続 第6回・6時間)(受講日:2024年2月26日)

医療機器安全管理責任者(前任者2024年8月31日まで):公益財団法人日本医療機能評価機構[2023年度特定機能病院管理者研修]2024年1月9日受講

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2023年3月16日～18日 公益財団法人 日本医療機能評価機構

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

2023年10月6日に評価認定を示す認定証が交付された。

この結果に関する改善要望事項に該当する項目はなかった。

なお、認定証は2023年11月7日に大学病院HPにて公開済み。

・評価を踏まえ講じた措置

特になし。

(注)記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <p>・ 基準の主な内容</p> <p>東京医科大学病院長、茨城医療センター病院長及び八王子医療センター病院長選出規程第5条において、次のとおり規定している。</p> <p>病院長は、次に掲げる要件を満たす者とし、選考委員会は、具体的な選考基準(病院長に求められる資質・能力)を策定し、公表するものとする。ただし、特定機能病院の病院長を選考する際には、第3号及び第4号のかつこ書に記載された事項を選考基準に含めるものとする。</p> <p>(1) 臨床研修修了医師であること。</p> <p>(2) 心身ともに健全であること。</p> <p>(3) 人格が高潔で、組織管理能力等病院の管理運営に識見を有すると認められること(病院内外での組織管理経験)。</p> <p>(4) 医療安全確保のための必要な資質・能力を有していると認められること(医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力)。</p> <p>(5) 過去3年以内に停職以上の懲戒を受けていないこと。</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無( 有 )</p> <p>・ 公表の方法</p> <p>選考時にホームページに記載</p>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無( 無 )</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無( 無 )</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無( 無 )</p> <p>・ 公表の方法</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の間係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための  
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有		
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>病院管理会議において、「経営戦略」及び「病院運営」の二つの要素から構成する。「病院運営」については、病院の最高協議体として、病院の運営・経営管理上必要となる諸事項を審議し、決議する。また、その執行にあたり、病院長を補佐する。</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>議事を記録し、委員へ配布するとともに、各委員会へ審議結果を下ろし、従業員へ周知が必要な事項については、文書、掲示板などを利用して周知する。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無( 有 )</p> <p>・公表の方法</p> <p>文書管理システム</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無( 無 )</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
山本 謙吾	○	医師	病院長
大野 芳正		医師	副院長
阿部 信二		医師	副院長
永川 裕一		医師	副院長
鈴木 亮		医師	副院長
高城 由紀		看護師	副院長 (看護部長)
松村 一		医師	病院長特別補佐 (医療情報管理・電子カルテシステム更新担当)
里見 和浩		医師	病院長特別補佐 (働き方改革担当)
遠藤 健司		医師	病院長特別補佐 (手術部支援担当・予約診療センター担当)
醍醐 象器		事務	事務部長 (医事課課長・経営企画室長兼務)
渡邊 秀裕		医師	感染制御部長
菅野 義彦		医師	医療の質・安全管理部長

相澤 卓		医師	医療保険室長
矢崎 義直		医師	総医局長
平山 さとみ		看護師	医療安全管理者
上野 竜一		医師	リハビリテーションセンター 医局長
山中 邦裕		技師	リハビリテーションセンター 理学療法士主査 6種
竹内 裕紀		薬剤師	薬剤部長
内田 健二		技師	放射線部技師長
古谷 弘一		技師	中央検査部技師長
山田 真由美		技師	臨床工学部技士長
芝崎 雅也		事務	医事課課長補佐 (入院)
葉澤 義成		事務	医事課課長補佐 (外来)
三島 修		事務	会計課長
宮澤 勝美		事務	人事課長
岡田 親		事務	資材課長
杵 直樹		事務	施設課長
須田 慎二郎		事務	総務課長
鎌田 智恵子		看護師	看護部 副看護部長 病床コントロール担当
酒井 誓一		事務	広報・社会連携推進室 専門員(法人本部)
那須 友里恵		事務	医療保険室 専門員
阿部 優子		事務	予約診療センター (メディカーサ)専門員
小林 靖		事務	健診予防医学センター 専門員 9種
田村 昌久		事務	手術部支援室 専門員
齋藤 豊		事務	診療情報室 専門員
伊藤 良和		医師	臨床研究支援センター
中澤 弘一		医師	集中治療部部長
田口 裕子		看護師	集中治療部師長
合谷木 徹		医師	麻酔科診療科長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無(有)</li><li>・ 公表の方法</li></ul> <p>ホームページ、規程集、学報</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 規程の主な内容</li></ul> <p>(人事)</p> <p>東京医科大学病院就業規則、学校法人東京医科大学職員任免規程等で、管理者が、病院の管理運営に必要な指導力を発揮するために、管理者(病院長)が推薦・申請を行い、理事長(理事会)の承認または理事長(理事会)への報告により昇任、異動等を実施している。また、理事長が任免権を施設の長(病院長)に委任することで、管理者による必要な人事を実施している。</p> <p>教育職員の採用、異動等は、各病院長が出席する人事審査会で、各病院の診療科の人員構成、定員の充足状況を思慮しながら、円滑な業務が遂行できるよう審議のうえ決定している。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割</li></ul>
<p><b>【職名】副院長</b></p> <p><b>【役割】</b>病院長を補佐(医療安全、資材管理、薬事担当、危機管理、BCP、診療(内科)、教育・研究担当、診療部長、診療(外科)、手術室運営担当、医療・企業連携、医療サービス・広報・社会連携担当、多職種連携担当)</p>
<p><b>【職名】病院長特別補佐</b></p> <p><b>【役割】</b>病院長の特命事項に係る調査・企画等を担当(医療情報管理・電子カルテシステム導入担当働き方改革担当、手術部支援室・予約診療センター担当)</p>
<p><b>【職名】診療部長</b></p> <p><b>【役割】</b>病院長の指示に従い診療部門を統括</p>
<p><b>【職名】経営企画室長</b></p> <p><b>【役割】</b>病院経営の改善に係る企画立案及び実施他</p>
<p><b>【職名】医療安全管理室長</b></p> <p><b>【役割】</b>医療安全部門の統括</p>

【職名】感染制御部

【役割】感染制御部門の統括

・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

接遇研修、コンプライアンス研修、ハラスメント防止研修、医療安全研修、階層別研修(新人、主任、係長、管理職)

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する  
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有
<p>・監査委員会の開催状況:年2回</p> <p>・活動の主な内容:</p> <p>(1) 医療安全管理者、医療安全管理室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者、感染制御部等の業務状況について病院長等からの報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>(2) 必要に応じて理事長、又は病院長に対し医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を上申すること。</p> <p>(3) (1)(2)に掲げる業務について、その結果を公表すること。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無(有)</p> <p>・委員名簿の公表の有無(有)</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無(有)</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無(有)</p> <p>・公表の方法:大学・病院ホームページ</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
落合 和徳	医療法人社団 三成会 新百合 ヶ丘総合病院 常勤顧問	○	東京慈恵会医科 大学附属病院副 院長(医療安全担 当)としての勤務 経験があり、医療 安全に関する学会 理事及び婦人科 領域における代表 者を務めるなど公 職経験も豊富であ り、専門的識見を 有する者	無	1.医療に係る安 全管理又は法 律に関する識見 を有する者その 他の学識経験を 有する者
安原 幸彦	東京南部法律 事務所 弁護士		弁護士として法律 事務所に勤務して おり、医療過誤訴 訟等の経験や医 療に係る法律に関 する識見を有する 者	無	1.医療に係る安 全管理又は法 律に関する識見 を有する者その 他の学識経験を 有する者

桑原 公平	西新宿六丁目 町会 会長		建設系一般事業 会社での勤務経 験を有し、区議会 議員を経て近隣地 区町会長を現任 する、医療を受け る者の一般的な観 点から発言ができ る、非医療従事者 に該当する者	無	2. 医療を受ける 者その他の医療 従事者以外の者
-------	--------------------	--	---	---	---------------------------------

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が  
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監事の業務監査として、期中監査において、会議の議事録の閲覧等を行い、法令等に適合しているかを確認している。

また、期末監査においては、内部監査室も同席し、必ず病院長の出席を求め、監事からの病院業務に関する質問、指摘、意見等に対して、病院長に直接、回答、説明を求めている。

詳細については、関係部署の責任者の説明や関連資料の提出を求めることにより、管理者である病院長の業務が法令等に違反することなく適正、公正に行われていることを確認している。

併せて病院業務における課題、改善に向けた意見、提言等を提示している。

内部監査室は、法人本部の監事室として、監事の業務を補佐するとともに、業務プロセスに係る内部監査を実施し、病院長の業務が法令等に違反することなく適正、公正に行われていることを確認し、改善に向けた意見を提示している。

また、監事、内部監査室、会計監査人による三様監査部門会議を定期的開催し、各々の監査状況の報告、問題点の確認、改善策の検討を行っている。

- ・ 専門部署の設置の有無( 有 )
- ・ 内部規程の整備の有無( 有 )
- ・ 内部規程の公表の有無( 有 )

・ 公表の方法

大学のホームページ

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による  
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況</li> </ul> <p>理事会が学校法人の一切の業務を決する機関であり、理事の6割が医師にて、病院運営に精通している。また予算や病院の事業計画、重要事項については、寄附行為に定められており、予め評議員会で意見を聴取し、理事会で最終審議をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議体の実施状況( 年17回 )</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数( 有 )( 年17回 )</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無( 無 )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称:			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に  
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）</li><li>・通報件数(年 0 件)</li><li>・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）</li><li>・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）</li><li>・周知の方法</li></ul> <p>本学ホームページ、学報、医療安全マニュアルへの掲載、研修会での周知、携帯カードを全員に配付</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類(任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・情報発信の方法、内容等の概要 ○ホームページ、冊子(病院案内)による情報発信 ○市民公開講座、子ども医学講座を実施	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 (1) 脳卒中センター 脳卒中に関連する診療科(脳神経外科、脳神経内科、高齢診療科、救命救急センター)が連携し、あらゆるタイプの脳血管障害に迅速に対応する体制を整えている。ひとつのチームとして定期的に合同会議を行い、脳卒中患者の情報を共有して総合的に治療にあたる。  (2) 口唇口蓋裂センター 口唇口蓋裂に関連する診療科(歯科口腔外科・矯正歯科、形成外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、小児科・思春期科、産科・婦人科)が連携して対応している。ひとつのチームとして定期的にカンファレンスを行い、患者さんの情報を共有しながら治療にあたる。  (3) 認知症疾患医療センター 認知症疾患に関連する診療科(高齢診療科、メンタルヘルス科)の認知症専門医が問診、神経心理検査、血液検査、画像診断、時に脳脊髄液検査などを施行し、認知症の早期診断と鑑別を行う。	

#### (4) 遺伝子診療センター

遺伝子疾患に関連する診療科(小児科・思春期科、産科・婦人科、臨床腫瘍科、循環器内科、臨床検査医学科、皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科)が、遺伝学的診断と遺伝性疾患に関する遺伝カウンセリングを行っております。本人や家族の遺伝性疾患に関する疑問、心配、不安に関してのご相談に、臨床遺伝専門医が関連各科と連携したチーム医療で対応する。

#### (5) 細胞再生医療センター

細胞再生医療に関連する診療科(心臓血管外科、歯科口腔外科・矯正歯科、皮膚科)が、再生医療を法令遵守の下、安全で迅速に、効率的に臨床現場に提供することを目的としたセンター。

#### (6) 聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター

聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍に関連する診療科(脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科)が、豊富な手術経験、手術の技術、術中脳神経モニタリング、術前・術後の専門的な種々の検査、術前の腫瘍塞栓を行う脳血管内治療チームをそろえたセンター。

#### (7) 炎症性腸疾患・良性腸疾患センター

当院では消化器内科、小児科において主にIBDの診療を実施し、その中で手術対象例は消化器外科・小児外科で治療を行う。専門性の高い難病の炎症性腸疾患と良性腸疾患に特化した内科、外科および小児科の三科医師による円滑かつ密接した診療体系を構築し、専門の専属薬剤師、管理栄養士、臨床心理士と連携を密にすることで、薬剤の説明や栄養指導、メンタルケアを重点的に行い、より患者さんに適切で安全な医療を提供する。

#### (8) 膵臓・胆道疾患センター

診断・手術だけでなく、放射線治療、化学療法、血管内治療、病理診断、緩和医療など、一人一人の患

者さんの状態に応じた最適な診断・治療を行う必要があるため、消化器内科、消化器外科・小児外科、さらには放射線科、臨床腫瘍科、病理診断科の専門医が定期的にカンファレンスを行い、個々の患者さんの病態に応じた最良の医療を行う。

(9) アレルギーセンター

呼吸器内科、小児科・思春期科、皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、眼科のアレルギーを専門とする医師たちで構成され、複数のアレルギー疾患をお持ちの方や重症アレルギー疾患でコントロール不良な方、食物アレルギー等で診断がつかずにお困りの患者さんの為に適切な医療を提供する。